

第2章 統計区別人口構造

1 男女、年齢別人口

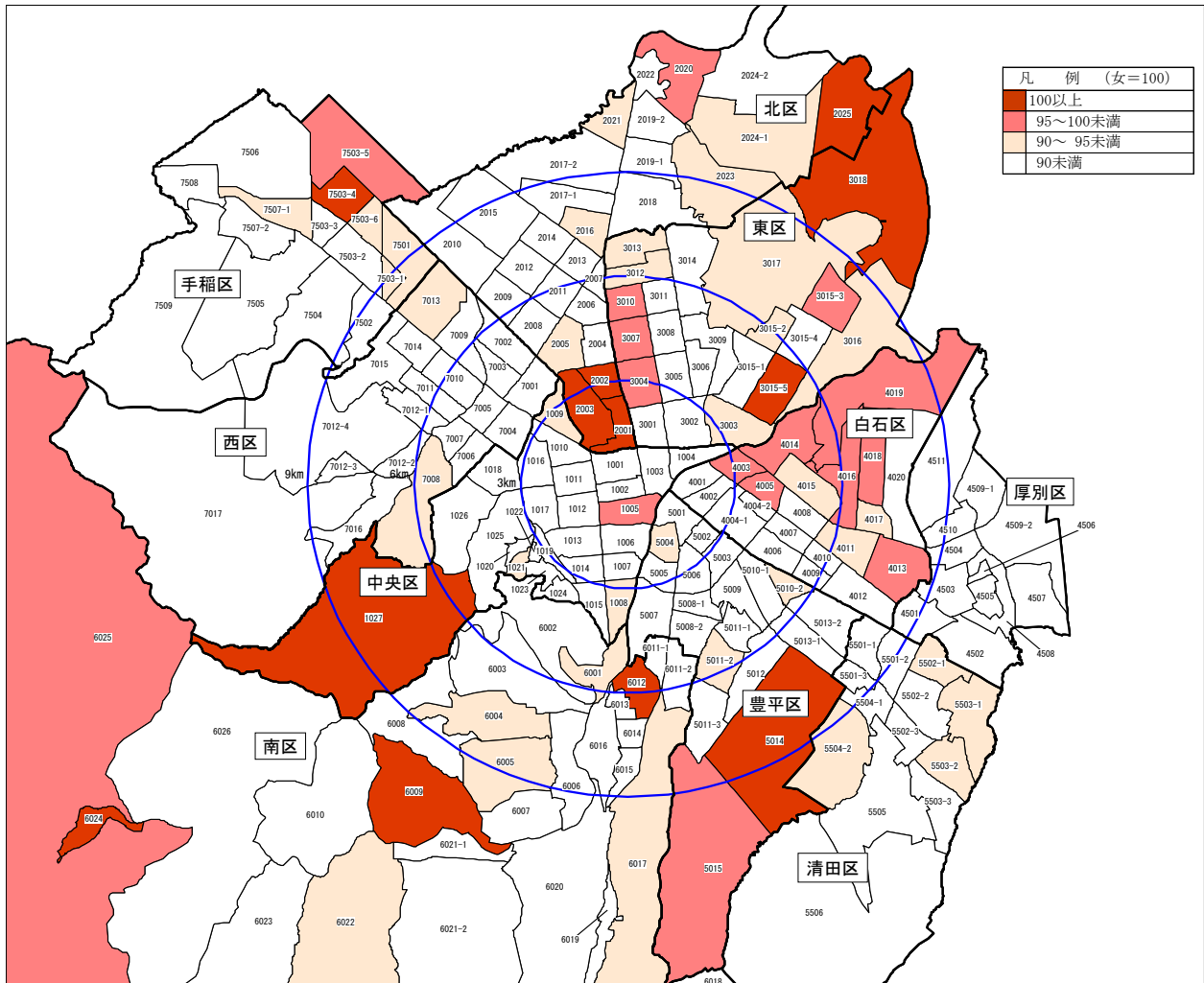
(1) 性比

自衛隊駐屯地や大学などが所在する統計区では性比が特に高い（第2-1表、第2-1図）

令和2年10月1日現在の性比（女性100人に対する男性の数）が高い統計区をみると、南区の6012統計区（真駒内本町、真駒内自衛隊敷地）が141.4で最も高く、以下、豊平区の5014統計区（羊ヶ丘）が134.4、北区の2003統計区（北海道大学構内）が131.0などと続いている。性比が100以上の統計区は12統計区あり、中でも、区域内やその周辺に自衛隊駐屯地や大学などが所在する統計区では性比が特に高い傾向となっている。

一方、性比が低い統計区をみると、厚別区の4506統計区（厚別中央）が54.5で最も低く、以下、中央区の1023統計区（旭ヶ丘、伏見）が65.0、南区の6010統計区（砥山）が67.3などと続いている。

第2-1図 統計区別性比（令和2年10月1日現在）



注： 第2-1表参照。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

第2-1表 性比の高い統計区及び低い統計区

人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

令和2年10月1日現在

順位	性比の高い統計区		順位	性比の低い統計区	
	統計区番号及び主な地区・町名	性比 (女=100)		統計区番号及び主な地区・町名	性比 (女=100)
1	6012 南) 真駒内本町、真駒内自衛隊敷地	141.4	1	4506 厚) 厚別中央	54.5
2	5014 豊) 羊ヶ丘	134.4	2	1023 中) 旭ヶ丘、伏見	65.0
3	2003 北) 北海道大学構内	131.0	3	6010 南) 砥山	67.3
4	2025 北) 篠路町福移	112.1	4	4505 厚) 青葉町	72.0
5	2001 北) 鉄西地区、幌北地区	106.3	5	6014 南) 真駒内上町・緑町	72.9
6	3018 東) 中沼西、中沼、中沼町	104.9	6	4507 厚) もみじ台東・西・南・北	75.1
7	3015-5 東) 東苗穂、本町	104.2	7	2022 北) 東茨戸	75.4
8	7503-4 手) 前田	101.7	8	1026 中) 宮の森	76.7
9	2002 北) 幌北地区	101.3	9	1011 中) 大通地区、桑園地区	76.8
10	6024 南) 定山溪温泉東、定山溪温泉西	100.4	10	7005 西) 琴似	77.4
11	1027 中) 盤溪	100.0	11	1024 中) 伏見	77.6
11	6009 南) 白川	100.0	11	5005 豊) 中の島、平岸	77.6
13	7503-5 手) 前田、手稲前田	99.7	13	1025 中) 円山西町、円山、宮ヶ丘	78.3
14	1005 中) 豊水地区、西創成地区	99.3	14	5002 豊) 豊平	78.4
15	2020 北) 篠路町篠路	98.7	15	7505 手) 手稲本町	78.5

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

第2-2表 年少人口割合の高い統計区及び低い統計区

年齢「不詳」を除いて算出。人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

(単位 %)

令和2年10月1日現在

順位	年少人口割合の高い統計区		順位	年少人口割合の低い統計区	
	統計区番号及び主な地区・町名	割合		統計区番号及び主な地区・町名	割合
1	3016 東) 東雁来、東雁来町	28.1	1	2025 北) 篠路町福移	—
2	5015 豊) 西岡	26.0	2	4506 厚) 厚別中央	2.2
3	2024-1 北) 拓北、南あいの里、篠路町拓北	18.4	3	2020 北) 篠路町篠路	2.6
4	2017-2 北) 屯田、屯田町	18.1	4	6018 南) 滝野	3.3
5	1021 中) 界川	18.0	5	6010 南) 砥山	3.7
6	7506 手) 曙、星置、明日風、手稲山口	17.9	6	2007 北) 麻生町	4.1
7	5503-1 清) 平岡、平岡公園、平岡公園東、里塚緑ヶ丘	17.4	7	1005 中) 豊水地区、西創成地区	4.2
8	1022 中) 旭ヶ丘	16.5	8	6026 南) 小金湯	4.7
9	5014 豊) 羊ヶ丘	16.0	9	1002 中) 本府地区	5.0
10	4018 白) 川北	15.4	10	6024 南) 定山溪温泉東、定山溪温泉西	5.2
11	2010 北) 新川、新川西	14.6	11	6009 南) 白川	5.3
11	3015-3 東) 東苗穂、東雁来、東苗穂町	14.6	12	1001 中) 中央地区	5.4
11	4509-1 厚) 厚別西、厚別北、厚別町小野幌	14.6	12	6012 南) 真駒内本町、真駒内自衛隊敷地	5.4
14	5011-3 豊) 西岡	14.4	14	2002 北) 幌北地区	5.6
15	2016 北) 屯田	14.2	15	1006 中) 豊水地区、曙地区	6.1
15	7503-1 手) 新発寒	14.2			

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

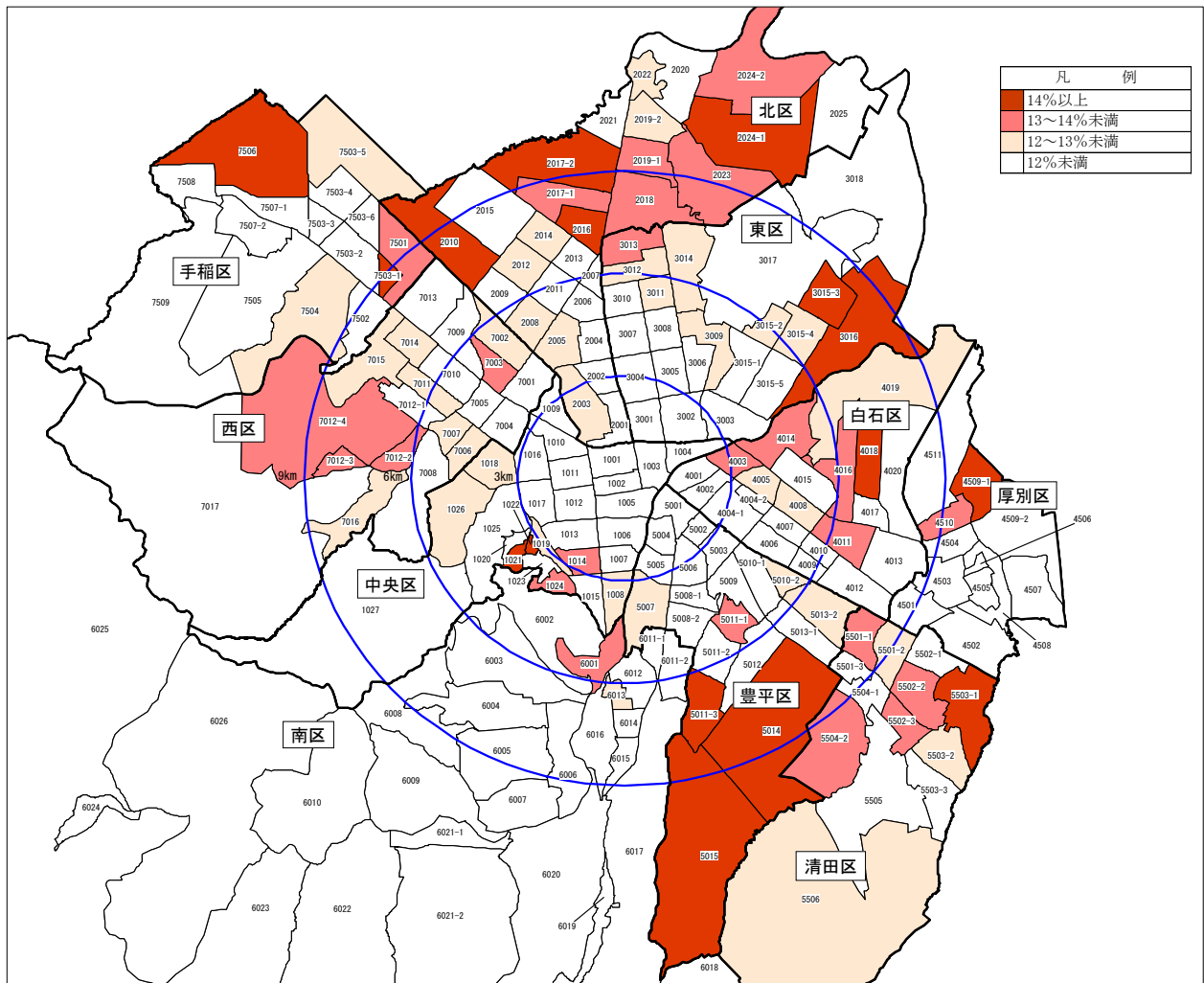
(2) 年齢別人口

年少人口割合は、都心部では低く、新興住宅地を含む統計区などで高い(第2-2表、第2-2図)

令和2年10月1日現在の人口を統計区別に、「年少人口」(0~14歳)、「生産年齢人口」(15~64歳)、「老年人口」(65歳以上)の3区分に分け、年齢「不詳」を除いた総人口に占める割合に注目する。

年少人口割合が高い統計区をみると、東区の3016統計区(東雁来、東雁来町)が28.1%で最も高く、以下、豊平区の5015統計区(西岡)が26.0%、北区の2024-1統計区(拓北、南あいの里、篠路町拓北)が18.4%などと続いている。

第2-2図 統計区別年少人口割合（令和2年10月1日現在）



注： 第2-2表参照。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

一方、年少人口割合が低い統計区をみると、北区の2025統計区（篠路町福移）が皆無で最も低く、以下、厚別区の4506統計区（厚別中央）が2.2%、北区の2020統計区（篠路町篠路）が2.6%などと続いている。年少人口割合は、都心部では低く、新興住宅地を含む統計区などで高くなっている。

生産年齢人口割合は、都心から3km未満や地下鉄沿線の統計区などで高い（第2-3表、第2-3図）

生産年齢人口割合が高い統計区をみると、北区の2003統計区（北海道大学構内）が80.3%で8割を超えて最も高く、以下、北区の2001統計区（鉄西地区、幌北地区）が79.5%、中央区の1005統計区（豊水地区、西創成地区）が78.9%などと続いている。

一方、生産年齢人口割合が低い統計区をみると、中央区の1027統計区（盤溪）が36.8%で最も低く、以下、厚別区の4506統計区（厚別中央）が37.7%、中央区の1023統計区（旭ヶ丘、伏見）が39.3%などと続いている。

生産年齢人口割合は、都心から3km未満や地下鉄沿線の統計区で高いほか、北海道大学が所在する統計区やその周辺で高くなっている。

第2-3表 生産年齢人口割合の高い統計区及び低い統計区

年齢「不詳」を除いて算出。人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

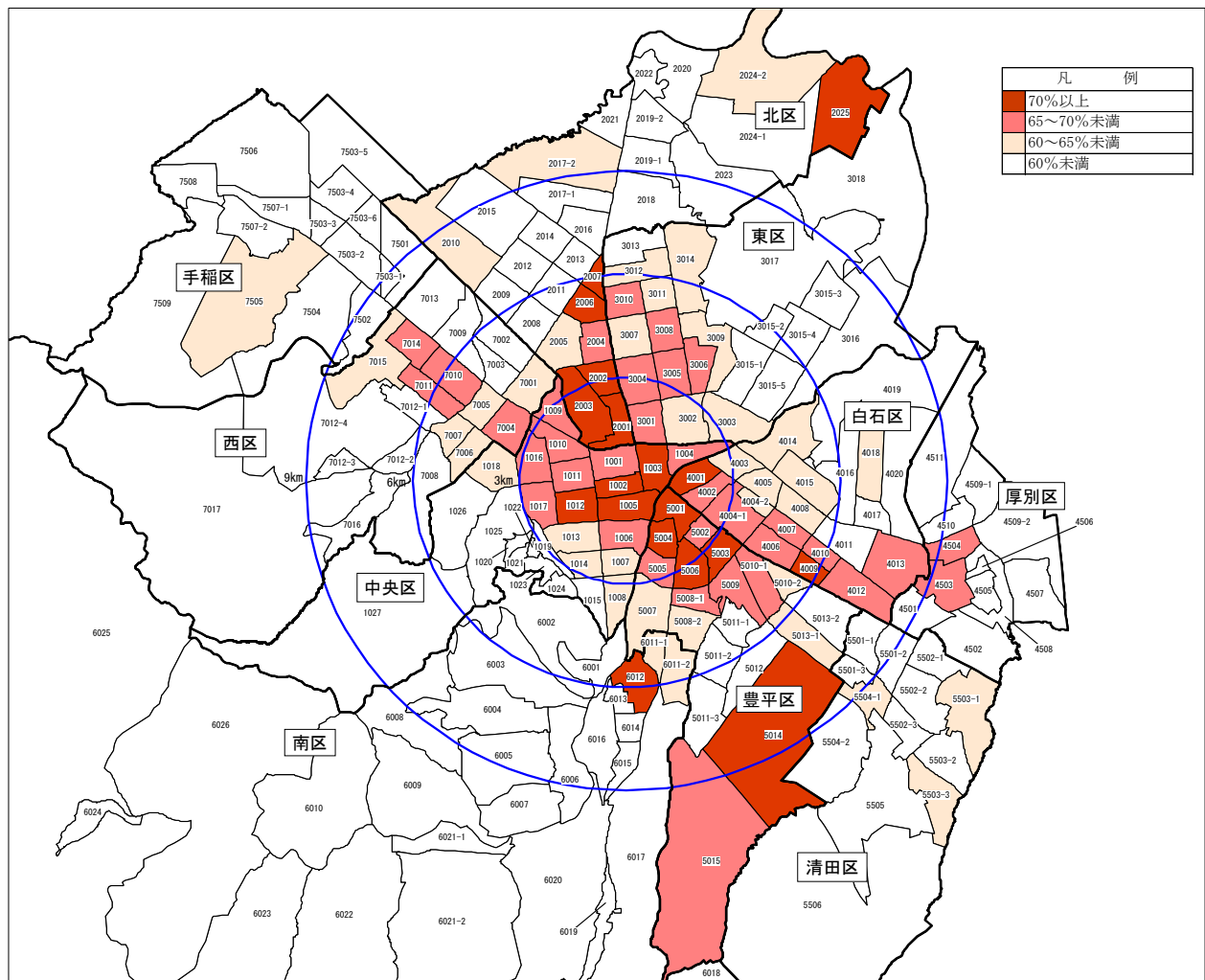
(単位 %)

令和2年10月1日現在

順位	生産年齢人口割合の高い統計区		順位	生産年齢人口割合の低い統計区	
	統計区番号及び主な地区・町名	割合		統計区番号及び主な地区・町名	割合
1	2003 北) 北海道大学構内	80.3	1	1027 中) 盤溪	36.8
2	2001 北) 鉄西地区、幌北地区	79.5	2	4506 厚) 厚別中央	37.7
3	1005 中) 豊水地区、西創成地区	78.9	3	1023 中) 旭ヶ丘、伏見	39.3
4	2002 北) 幌北地区	77.5	4	6018 南) 滝野	41.0
5	5014 豊) 羊ヶ丘	77.3	5	1020 中) 双子山	42.1
6	2025 北) 篠路町福移	75.7	6	6023 南) 豊滝	43.1
7	6012 南) 真駒内本町、真駒内自衛隊敷地	74.7	7	4507 厚) もみじ台東・西・南・北	43.3
8	2007 北) 麻生町	74.2	8	2022 北) 東茨戸	44.0
9	1003 中) 東北地区、東地区	74.0	9	6010 南) 砥山	44.4
10	4001 白) 菊水	72.7	10	5506 清) 有明	45.5
11	4009 白) 栄通、南郷通	72.2	11	6009 南) 白川	45.6
12	5006 豊) 豊平、美園、平岸	72.1	12	7008 西) 山の手、小別沢	46.5
13	1012 中) 大通地区、西地区	72.0	13	4505 厚) 青葉町	46.7
14	5004 豊) 旭町、水車町、平岸	71.0	14	6020 南) 真駒内南町、石山、石山東、 芸術の森	47.7
15	1002 中) 本府地区	70.8	15	7017 西) 平和	48.7

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

第2-3図 統計区別生産年齢人口割合 (令和2年10月1日現在)



注： 第2-3表参照。

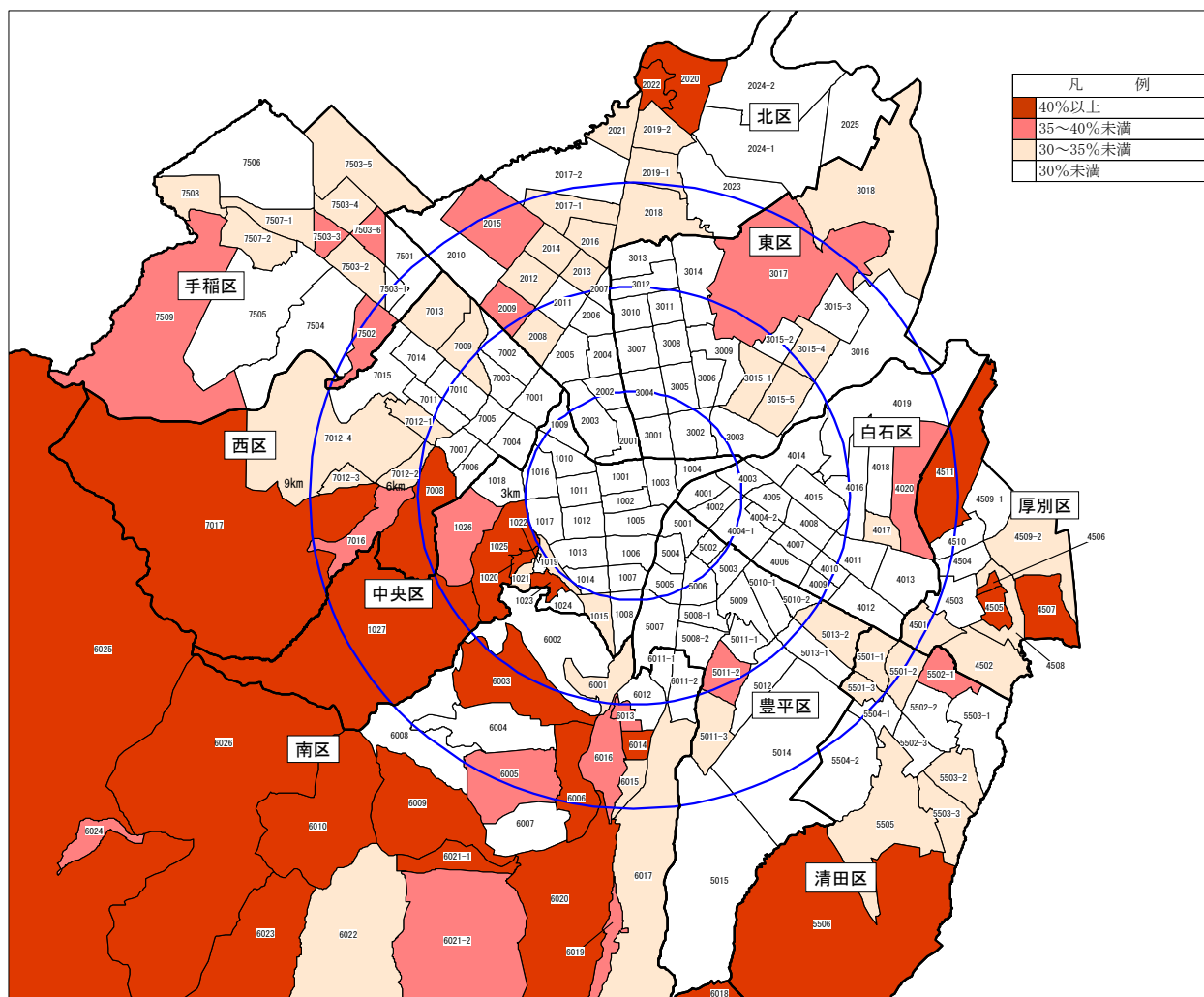
<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

老年人口割合は、南区の多くの統計区で4割を超える（第2-4表、第2-4図）

老年人口割合が高い統計区をみると、厚別区の4506統計区（厚別中央）が60.0%で最も高く、以下、南区の6018統計区（滝野）が55.7%、中央区の1027統計区（盤渓）が53.8%などと続いている。南区の多くの統計区では、老年人口割合が4割を超えて高くなっている。

一方、老年人口割合が低い統計区をみると、豊平区の5015統計区（西岡）が6.5%で最も低く、以下、豊平区の5014統計区（羊ヶ丘）が6.7%、北区の2003統計区（北海道大学構内）が7.4%となっており、1割を下回っているのはこれら3つの統計区のみである。

第2-4図 統計区別老年人口割合（令和2年10月1日現在）



注： 第2-4表参照。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

第2-4表 老年人口割合の高い統計区及び低い統計区

年齢「不詳」を除いて算出。人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

(単位 %) 令和2年10月1日現在

順位	老年人口割合の高い統計区		順位	老年人口割合の低い統計区	
	統計区番号及び主な地区・町名	割合		統計区番号及び主な地区・町名	割合
1	4506 厚) 厚別中央	60.0	1	5015 豊) 西岡	6.5
2	6018 南) 滝野	55.7	2	5014 豊) 羊ヶ丘	6.7
3	1027 中) 盤溪	53.8	3	2003 北) 北海道大学構内	7.4
4	6010 南) 砥山	51.9	4	2001 北) 鉄西地区、幌北地区	14.3
5	1023 中) 旭ヶ丘、伏見	49.7	5	3016 東) 東雁来、東雁来町	15.8
6	4507 厚) もみじ台東・西・南・北	49.3	6	1005 中) 豊水地区、西創成地区	16.9
7	6009 南) 白川	49.1	6	2002 北) 幌北地区	16.9
8	6023 南) 豊滝	48.7	8	1003 中) 東北地区、東地区	17.8
9	2020 北) 篠路町篠路	48.1	9	2017-2 北) 屯田、屯田町	18.7
10	1020 中) 双子山	47.2	10	5006 豊) 豊平、美園、平岸	18.9
11	7008 西) 山の手、小別沢	46.2	11	4002 白) 菊水	19.2
12	6026 南) 小金湯	45.9	12	4009 白) 栄通、南郷通	19.3
13	4505 厚) 青葉町	45.3	13	4001 白) 菊水	19.5
14	2022 北) 東茨戸	43.3	14	1016 中) 円山地区、桑園地区	19.8
15	6020 南) 真駒内南町、石山、石山東、 芸術の森	42.6	14	6012 南) 真駒内本町、真駒内自衛隊敷地	19.8

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

2 配偶関係

男性の未婚率は、北区の2025統計区（篠路町福移）のほか、北海道大学の周辺や自衛隊駐屯地を含む統計区などで特に高い（第2-5表、第2-5図）

令和2年10月1日現在の男性の未婚率（配偶関係「不詳」を除いた15歳以上人口に占める「未婚」の割合）が高い統計区を見ると、北区の2025統計区（篠路町福移）が70.3%で7割を超えて最も高く、以下、北区の2003統計区（北海道大学構内）が66.9%、北区の2001統計区（鉄西地区、幌北地区）が65.1%などと続いている。

男性の未婚率は、北区の2025統計区（篠路町福移）のほか、北海道大学の周辺や自衛隊駐屯地を含む統計区などで特に高くなっている。

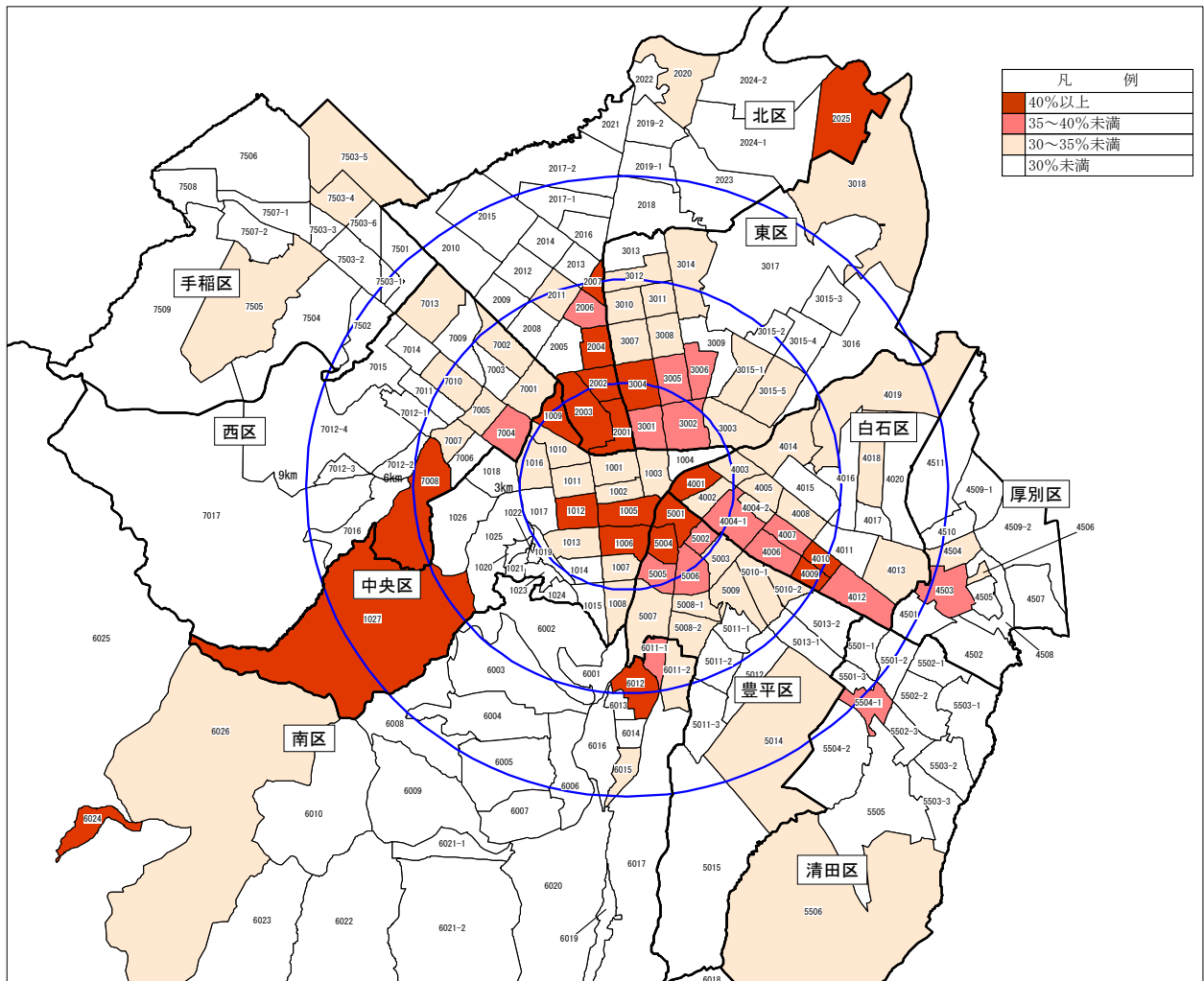
第2-5表 男の未婚率の高い統計区

15歳以上人口に関する数値であり、配偶関係「不詳」を除いて算出。人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

(単位 %)		令和2年10月1日現在	
順位	統計区番号及び主な地区・町名	未婚率	
1	2025 北) 篠路町福移	70.3	
2	2003 北) 北海道大学構内	66.9	
3	2001 北) 鉄西地区、幌北地区	65.1	
4	6012 南) 真駒内本町、真駒内自衛隊敷地	61.3	
5	2002 北) 幌北地区	60.2	
6	7008 西) 山の手、小別沢	52.8	
7	2007 北) 麻生町	50.1	
8	1005 中) 豊水地区、西創成地区	49.4	
9	1027 中) 盤溪	49.1	
10	5004 豊) 旭町、水車町、平岸	46.0	
11	1012 中) 大通地区、西地区	45.3	
12	6024 南) 定山溪温泉東、定山溪温泉西	44.0	
13	2004 北) 北地区	43.1	
14	3004 東) 北光地区、北栄地区	42.4	
15	5001 豊) 豊平、旭町、水車町	42.3	

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

第2-5図 統計区別未婚率（男）（令和2年10月1日現在）



注： 第2-5表参照。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

女性の未婚率は、都心から3km未満
や地下鉄沿線の統計区で高い（第2-6
表、第2-6図）

次に、女性の未婚率が高い統計区をみると、北区の2001統計区（鉄西地区、幌北地区）が55.1%で最も高く、以下、北区の2025統計区（篠路町福移）が53.1%、北区の2002統計区（幌北地区）が51.8%などと続いている。

女性の未婚率は、都心から3km未満や地下鉄沿線の統計区などで高い傾向がみられる。

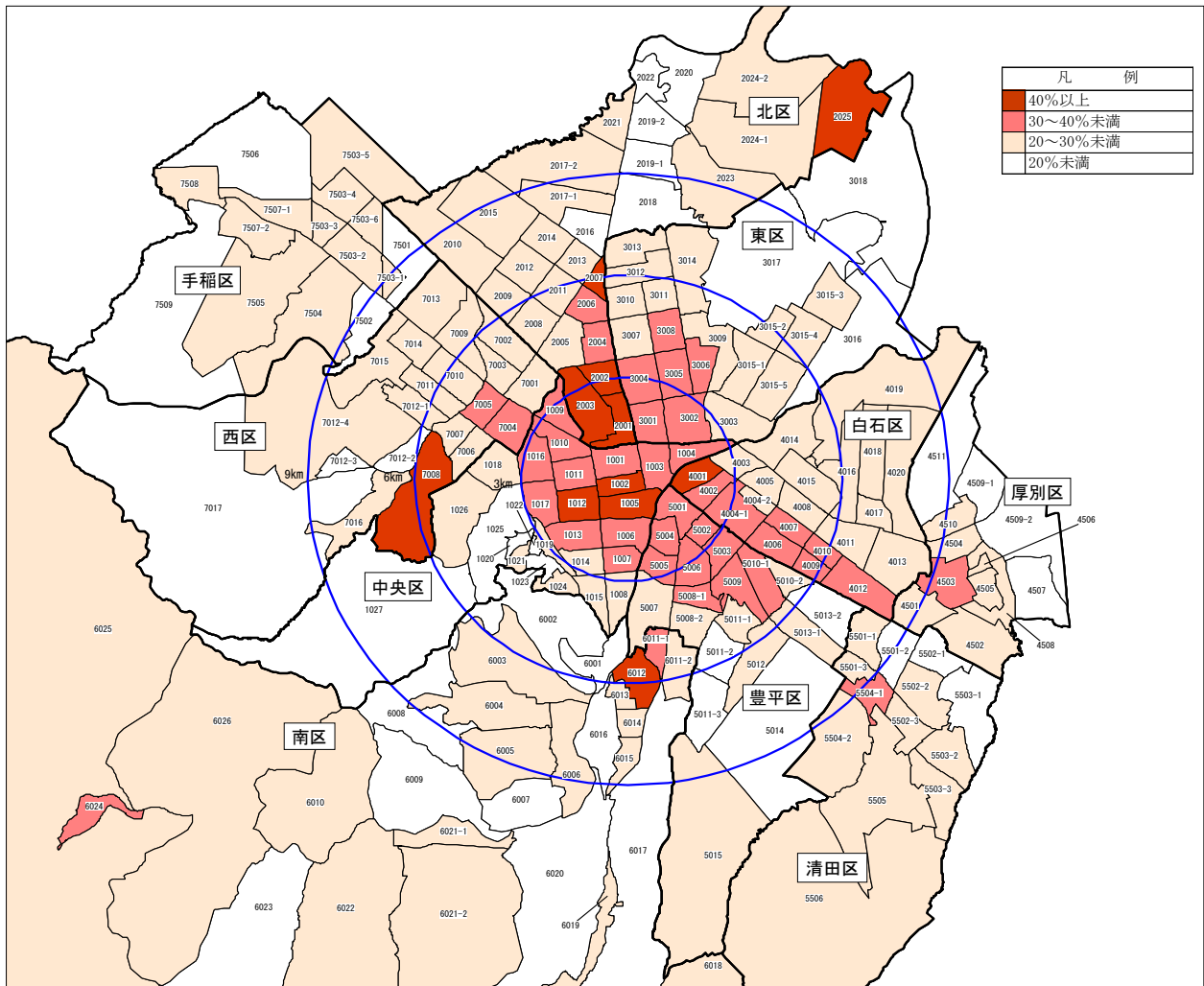
第2-6表 女の未婚率の高い統計区

15歳以上人口に関する数値であり、配偶関係「不詳」を除いて算出。人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

(単位 %)		令和2年10月1日現在	
順位	統計区番号及び主な地区・町名	未婚率	
1	2001 北) 鉄西地区、幌北地区	55.1	
2	2025 北) 篠路町福移	53.1	
3	2002 北) 幌北地区	51.8	
4	2003 北) 北海道大学構内	51.4	
5	1005 中) 豊水地区、西創成地区	50.0	
6	2007 北) 麻生町	48.5	
7	1012 中) 大通地区、西地区	46.1	
8	7008 西) 山の手、小別沢	43.8	
9	6012 南) 真駒内本町、真駒内自衛隊敷地	43.1	
10	4001 白) 菊水	41.5	
11	1002 中) 本府地区	40.1	
12	2006 北) 麻生地区	39.8	
13	2004 北) 北地区	39.3	
14	1003 中) 東北地区、東地区	38.9	
15	1006 中) 豊水地区、曙地区	38.3	

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

第2-6図 統計区別未婚率（女）（令和2年10月1日現在）



注： 第2-6表参照。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

男性の有配偶率は、都心部では低く、都心から離れた統計区で高い傾向（第2-7表、第2-7図）

男性の有配偶率（配偶関係「不詳」を除いた15歳以上人口に占める「有配偶」の割合）が高い統計区をみると、東区の3016統計区（東雁来、東雁来町）が76.3%で最も高く、以下、清田区の5503-1統計区（平岡、平岡公園、平岡公園東、里塚緑ヶ丘）が75.4%、厚別区の4509-1統計区（厚別西、厚別北、厚別町小野幌）が73.6%などと続いている。

男性の有配偶率は、都心部では低く、都心から離れた統計区で高い傾向となっている。

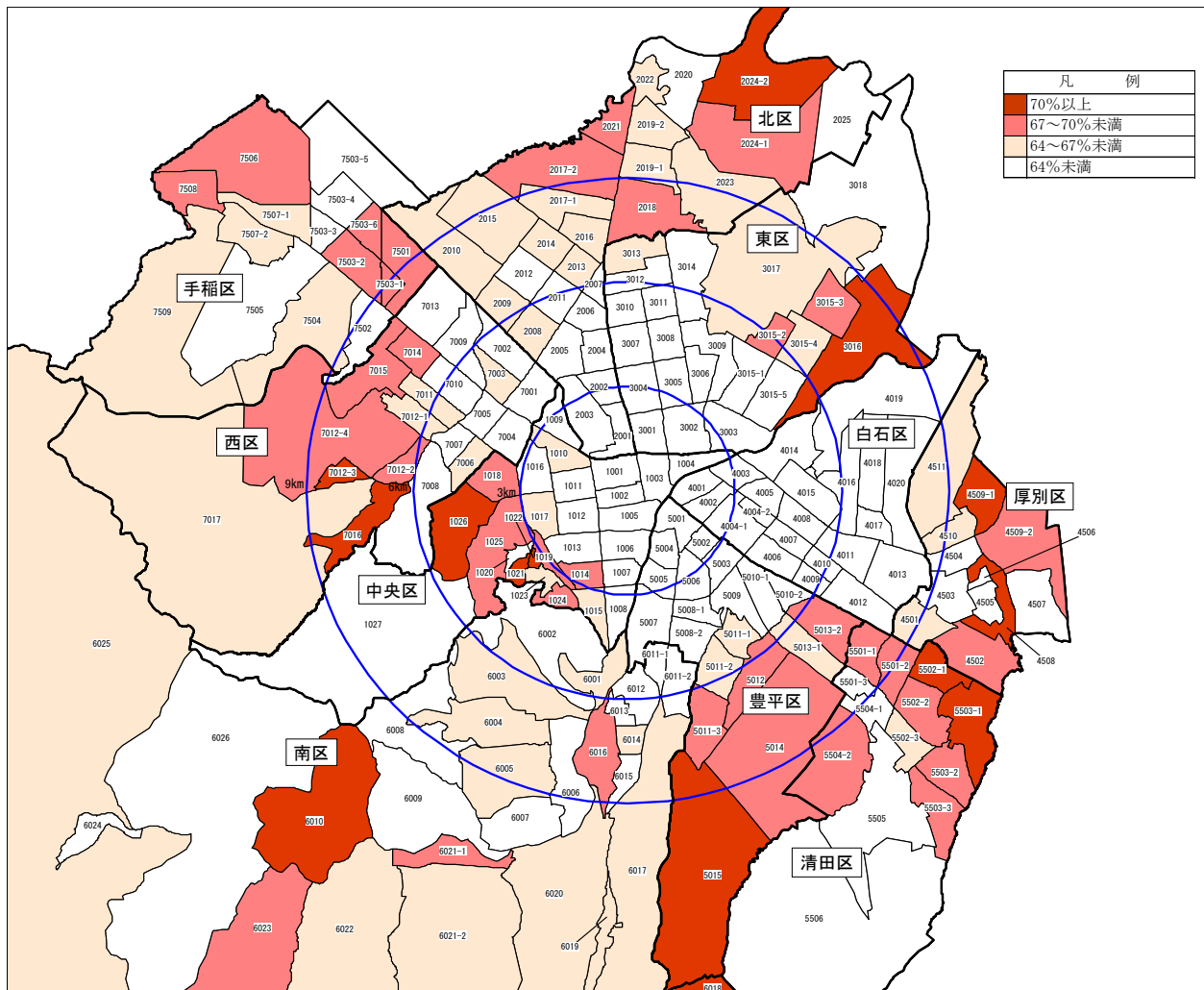
第2-7表 男の有配偶率の高い統計区

15歳以上人口に関する数値であり、配偶関係「不詳」を除いて算出。人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

(単位 %)		令和2年10月1日現在	
順位	統計区番号及び主な地区・町名	有配偶率	
1	3016 東) 東雁来、東雁来町	76.3	
2	5503-1 清) 平岡、平岡公園、平岡公園東、里塚緑ヶ丘	75.4	
3	4509-1 厚) 厚別西、厚別北、厚別町小野幌	73.6	
4	6010 南) 砥山	73.3	
5	6018 南) 滝野	73.1	
6	5502-1 清) 平岡、平岡公園東	72.7	
7	1026 中) 宮の森	72.3	
8	1021 中) 界川	72.2	
9	5015 豊) 西岡	71.3	
10	1022 中) 旭ヶ丘	71.2	
11	7016 西) 福井	70.5	
12	2024-2 北) あいの里、篠路町拓北	70.3	
13	4508 厚) 青葉町、厚別中央、厚別南	70.1	
14	7012-3 西) 西野	70.0	
15	5014 豊) 羊ヶ丘	69.7	

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

第2-7図 統計区別有配偶率（男）（令和2年10月1日現在）



注： 第2-7表参照。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

女性の有配偶率は、男性と同様に都心部では低く、都心から離れた統計区で高い傾向（第2-8表、第2-8図）

次に、女性の有配偶率が高い統計区をみると、豊平区の5014統計区（羊ヶ丘）が85.7%で8割を超えて最も高く、以下、清田区の5503-1統計区（平岡、平岡公園、平岡公園東、里塚緑ヶ丘）が70.4%、豊平区の5015統計区（西岡）が69.1%などと続いている。

女性の有配偶率は、男性と同様に都心部では低く、都心から離れた統計区で高い傾向となっている。

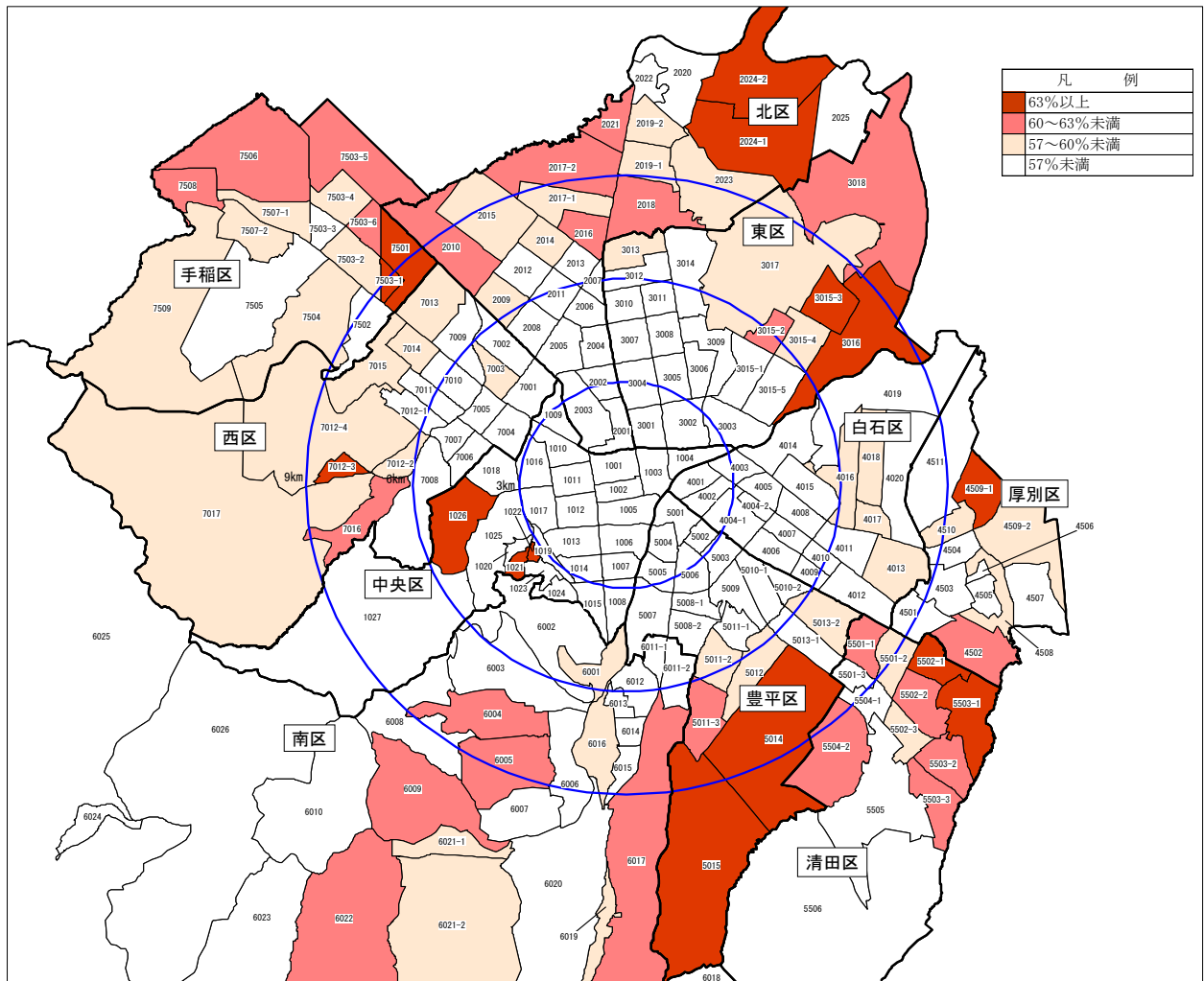
第2-8表 女の有配偶率の高い統計区

15歳以上人口に関する数値であり、配偶関係「不詳」を除いて算出。人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

(単位 %)		令和2年10月1日現在	
順位	統計区番号及び主な地区・町名	有配偶率	
1	5014 豊) 羊ヶ丘	85.7	
2	5503-1 清) 平岡、平岡公園、平岡公園東、里塚緑ヶ丘	70.4	
3	5015 豊) 西岡	69.1	
4	3016 東) 東雁来、東雁来町	68.9	
5	4509-1 厚) 厚別西、厚別北、厚別町小野幌	67.9	
6	1021 中) 界川	67.1	
7	5502-1 清) 平岡、平岡公園東	66.9	
8	2024-2 北) あいの里、篠路町拓北	65.6	
9	1022 中) 旭ヶ丘	65.0	
10	7501 手) 新発寒	64.8	
11	3015-3 東) 東苗穂、東雁来、東苗穂町	64.3	
12	2024-1 北) 拓北、南あいの里、篠路町拓北	63.3	
13	7503-1 手) 新発寒	63.2	
14	7012-3 西) 西野	63.1	
15	1026 中) 宮の森	63.0	

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

第2-8図 統計区別有配偶率（女）（令和2年10月1日現在）



注： 第2-8表参照。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

3 労働力状態

(1) 男女別労働力率

男性の労働力率が高い統計区には、南区の統計区や地下鉄沿線の統計区などが多い傾向（第2-9表、第2-9図）

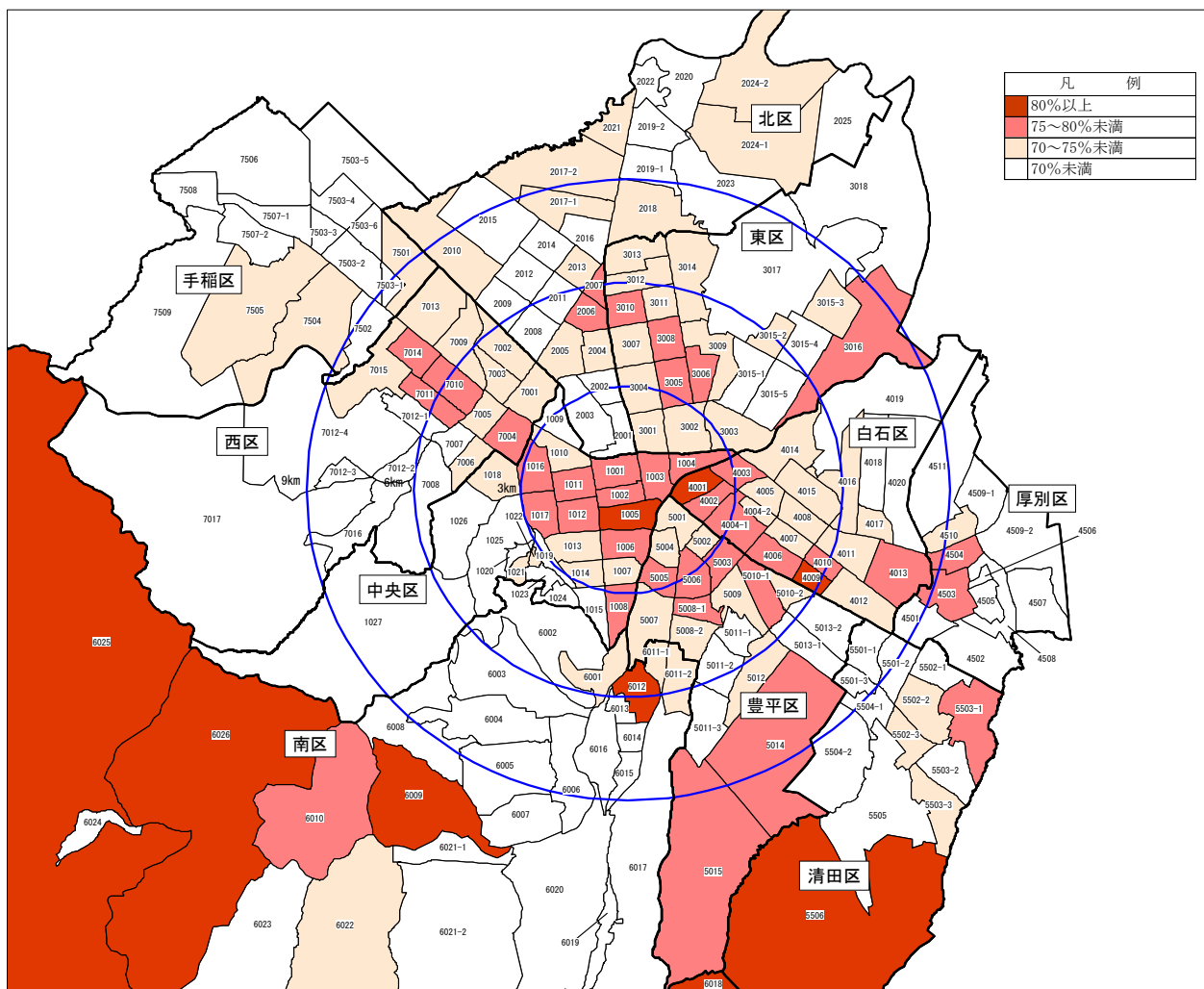
令和2年10月1日現在の労働力状態について、統計区別の労働力率（労働力状態「不詳」を除いた15歳以上人口に占める「労働力人口」の割合）に注目する。

男性の労働力率が高い統計区をみると、南区の6012統計区（真駒内本町、真駒内自衛隊敷地）が91.0%で9割を超えて最も高く、以下、清田区の5506統計区（有明）が87.2%、南区の6018統計区（滝野）が86.4%などと続いている。

一方、労働力率が低い統計区をみると、中央区の1027統計区（盤渓）が26.2%で最も低く、以下、北区の2025統計区（篠路町福移）が26.5%、西区の7008統計区（山の手、小別沢）が30.0%などと続いている。

男性の労働力率が高い統計区には、南区の6012統計区（真駒内本町、真駒内自衛隊敷地）など南区の統計区や、地下鉄沿線の統計区などが多い傾向がみられる。

第2-9図 統計区別労働力率（男）（令和2年10月1日現在）



注： 第2-9表参照。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

第2-9表 男の労働力率の高い統計区及び低い統計区

15歳以上人口に関する数値であり、労働力状態「不詳」を除いて算出。人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

(単位 %)			令和2年10月1日現在		
順位	男の労働力率の高い統計区		順位	男の労働力率の低い統計区	
	統計区番号及び主な地区・町名	割合		統計区番号及び主な地区・町名	割合
1	6012 南) 真駒内本町、真駒内自衛隊敷地	91.0	1	1027 中) 盤溪	26.2
2	5506 清) 有明	87.2	2	2025 北) 篠路町福移	26.5
3	6018 南) 滝野	86.4	3	7008 西) 山の手、小別沢	30.0
4	6026 南) 小金湯	85.3	4	1020 中) 双子山	44.3
5	1005 中) 豊水地区、西創成地区	82.3	5	3015-5 東) 東苗穂、本町	48.4
6	6009 南) 白川	81.8	6	4506 厚) 厚別中央	50.8
6	6025 南) 定山溪	81.8	7	4507 厚) もみじ台東・西・南・北	54.9
8	4001 白) 菊水	80.1	8	2003 北) 北海道大学構内	55.2
8	4009 白) 栄通、南郷通	80.1	9	4505 厚) 青葉町	58.1
10	1002 中) 本府地区	79.8	10	6023 南) 豊滝	58.6
11	3016 東) 東雁来、東雁来町	79.7	11	1023 中) 旭ヶ丘、伏見	59.1
12	1003 中) 東北地区、東地区	79.6	12	6020 南) 真駒内南町、石山、石山東、芸術の森	59.5
13	5006 豊) 豊平、美園、平岸	79.5	13	1025 中) 円山西町、円山、宮ヶ丘	60.2
14	5003 豊) 美園	79.4	13	2001 北) 鉄西地区、幌北地区	60.2
15	5014 豊) 羊ヶ丘	79.2	15	7502 手) 西宮の沢	60.7

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

第2-10表 女の労働力率の高い統計区及び低い統計区

15歳以上人口に関する数値であり、労働力状態「不詳」を除いて算出。人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

(単位 %)			令和2年10月1日現在		
順位	女の労働力率の高い統計区		順位	女の労働力率の低い統計区	
	統計区番号及び主な地区・町名	割合		統計区番号及び主な地区・町名	割合
1	5014 豊) 羊ヶ丘	75.0	1	7008 西) 山の手、小別沢	20.2
2	6018 南) 滝野	73.1	2	1027 中) 盤溪	20.4
3	6025 南) 定山溪	68.8	3	1020 中) 双子山	24.7
4	1005 中) 豊水地区、西創成地区	66.8	4	1023 中) 旭ヶ丘、伏見	25.6
5	6010 南) 砥山	66.7	5	2025 北) 篠路町福移	28.1
6	4001 白) 菊水	66.4	6	2022 北) 東茨戸	31.4
7	4009 白) 栄通、南郷通	65.9	7	1025 中) 円山西町、円山、宮ヶ丘	36.2
8	5006 豊) 豊平、美園、平岸	64.9	8	4506 厚) 厚別中央	37.3
9	2007 北) 麻生町	64.5	9	1026 中) 宮の森	39.0
10	5015 豊) 西岡	64.4	9	4511 厚) 厚別西、厚別町山本	39.0
11	5003 豊) 美園	62.7	11	7502 手) 西宮の沢	39.1
12	2006 北) 麻生地区	62.4	12	4507 厚) もみじ台東・西・南・北	39.8
13	4010 白) 本郷通、本通南	62.1	13	7509 手) 金山、手稲金山	39.9
14	6009 南) 白川	61.9	14	1019 中) 幌西地区、南円山地区	40.1
15	4002 白) 菊水	61.7	15	6003 南) 北ノ沢、川浴	40.7
15	5005 豊) 中の島、平岸	61.7			

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

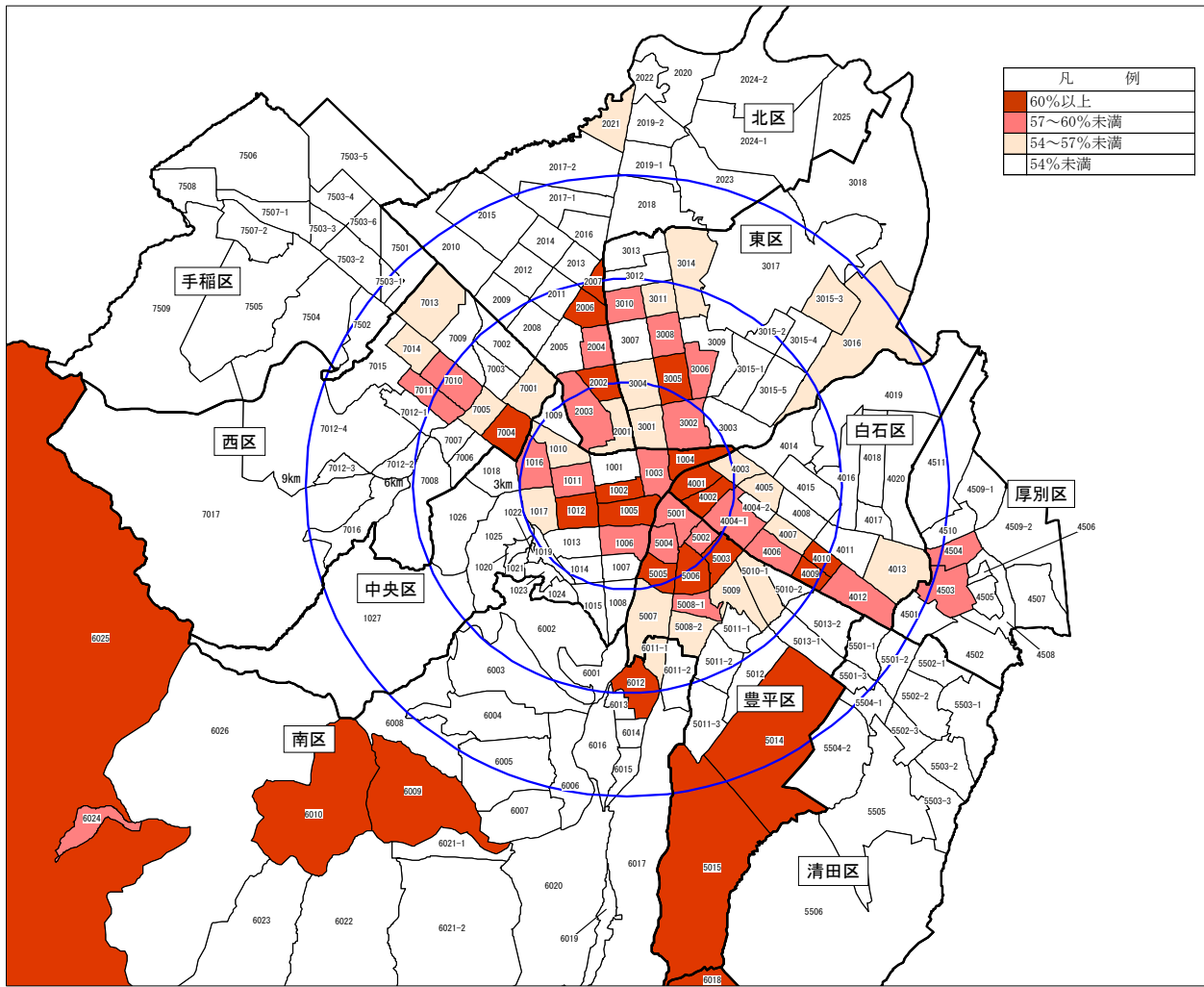
女性の労働力率は、南区の郊外のほか、都心から3km未満や地下鉄沿線の統計区などで高い（第2-10表、第2-10図）

次に、女性の労働力率が高い統計区をみると、豊平区の5014統計区（羊ヶ丘）が75.0%で最も高く、以下、南区の6018統計区（滝野）が73.1%、南区の6025統計区（定山溪）が68.8%などと続いている。

一方、労働力率が低い統計区をみると、西区の7008統計区（山の手、小別沢）が20.2%で最も低く、以下、中央区の1027統計区（盤溪）が20.4%、中央区の1020統計区（双子山）が24.7%などと続いている。

女性の労働力率は、南区の6018統計区（滝野）や南区の6025統計区（定山溪）など都心から9km以上離れた南区の郊外の統計区のほか、都心から3km未満や地下鉄沿線の統計区などで高くなっている。

第2-10図 統計区別労働力率（女）（令和2年10月1日現在）



注： 第2-10表参照。
 <資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

(2) 男女別正規及び非正規の職員・従業員割合

男性の正規の職員・従業員割合は、地下鉄沿線のほか、東区の3016統計区（東雁来、東雁来町）など新興住宅地を含む統計区などで高い（第2-11表、第2-11図）

令和2年10月1日現在の15歳以上就業者の従業上の地位について、統計区別に男女の正規の職員・従業員及び非正規の職員・従業員（「労働者派遣事業所の派遣社員」及び「パート・アルバイト・その他」の合計）別の割合（従業上の地位「不詳」を除いた15歳以上就業者に占める割合）に注目する。

男性の正規の職員・従業員割合が高い統計区をみると、豊平区の5014統計区（羊ヶ丘）が100.0%となっており、全ての15歳以上就業者が正規の職員・従業員となっている。以下、南区の6012統計区（真駒内本町、真駒内自衛隊敷地）が93.1%、豊平区の5015統計区（西岡）が81.4%などと続いている。

一方、非正規の職員・従業員割合が高い統計区をみると、北区の2003統計区（北海道大学構内）が51.2%で5割を超えて最も高く、以下、北区の2001統計区（鉄西地区、幌北地区）が39.1%、厚別区の4506統計区（厚別中央）が34.0%などと続いている。

男性の正規の職員・従業員割合が高い統計区は、地下鉄沿線のほか、東区の3016統計区（東雁来、東雁来町）や手稲区の7506統計区（曙、星置、明日風、手稲山口）など新興住宅地を含む統計区などでも高くなっている。

第2-11表 男の正規の職員・従業員及び非正規の職員・従業員割合の高い統計区

15歳以上就業者に関する数値であり、従業上の地位「不詳」を除いて算出。人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

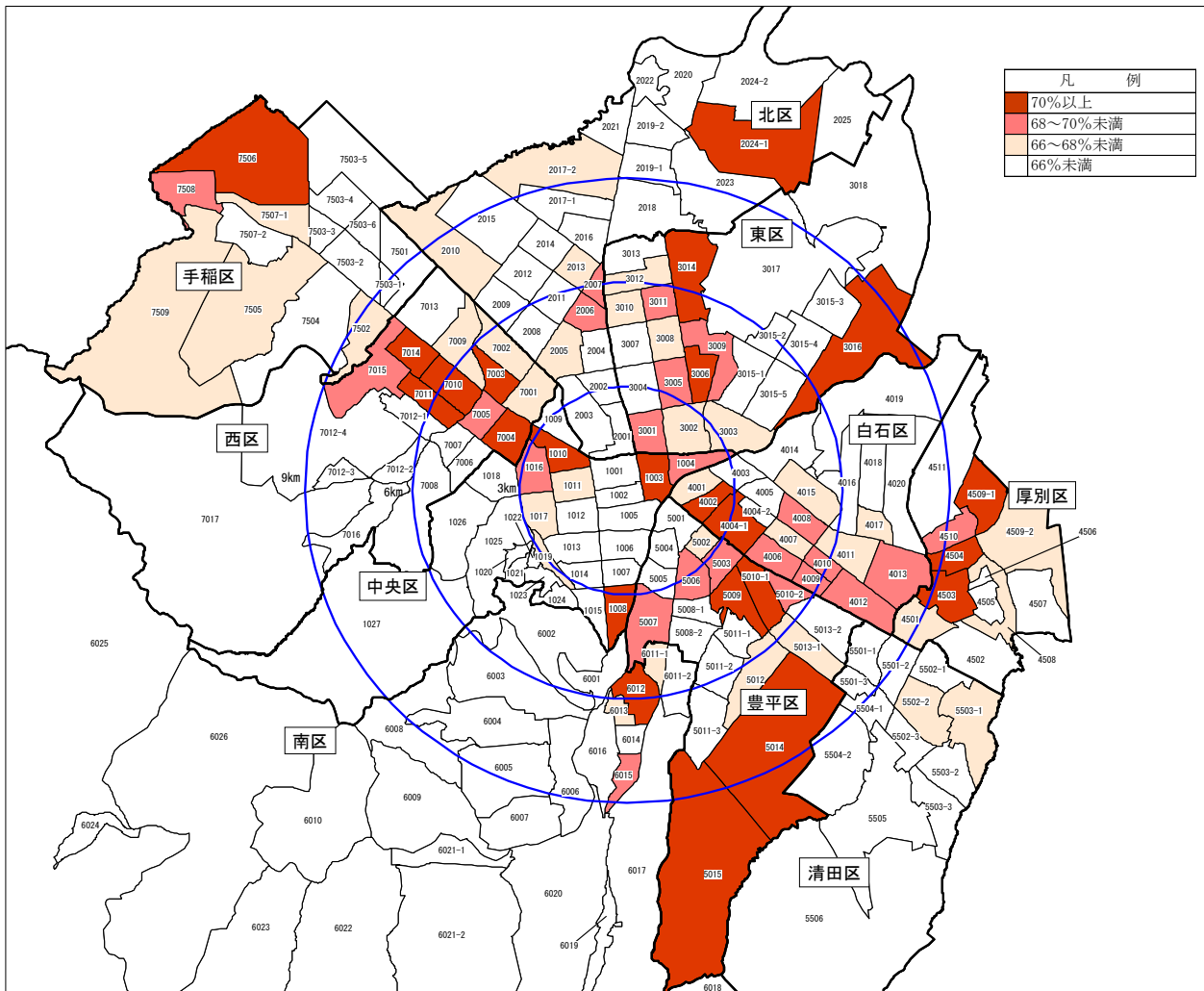
(単位 %)

令和2年10月1日現在

順位	男の正規の職員・従業員割合の高い統計区 統計区番号及び主な地区・町名	割合	順位	男の非正規の職員・従業員割合の高い統計区 統計区番号及び主な地区・町名	割合
1	5014 豊) 羊ヶ丘	100.0	1	2003 北) 北海道大学構内	51.2
2	6012 南) 真駒内本町、真駒内自衛隊敷地	93.1	2	2001 北) 鉄西地区、幌北地区	39.1
3	5015 豊) 西岡	81.4	3	4506 厚) 厚別中央	34.0
4	7014 西) 発寒	74.7	4	2025 北) 篠路町福移	33.3
5	7011 西) 西町北、西町南	73.7	5	2002 北) 幌北地区	31.4
6	4002 白) 菊水	73.1	6	4507 厚) もみじ台東・西・南・北	27.4
7	3016 東) 東雁来、東雁来町	73.0	7	6026 南) 小金湯	25.0
8	5010-1 豊) 美園、月寒東、月寒中央通	72.7	8	7503-4 手) 前田	24.8
9	7003 西) 八軒西	71.7	9	4505 厚) 青葉町	24.5
10	4509-1 厚) 厚別西、厚別北、厚別町小野幌	71.6	10	6023 南) 豊滝	22.9
11	4504 厚) 厚別中央	71.5	11	5004 豊) 旭町、水車町、平岸	22.6
11	7010 西) 発寒	71.5	12	6025 南) 定山溪	22.2
13	3014 東) 栄東地区、栄町	71.4	13	6005 南) 南沢	22.0
13	7506 手) 曙、星置、明日風、手稲山口	71.4	14	6006 南) 川沿、川沿町	21.9
15	1003 中) 東北地区、東地区	71.3	15	6021-2 南) 藤野	21.0
15	7004 西) 二十四軒	71.3			

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

第2-11図 統計区別正規の職員・従業員割合 (男) (令和2年10月1日現在)



注： 第2-11表参照。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

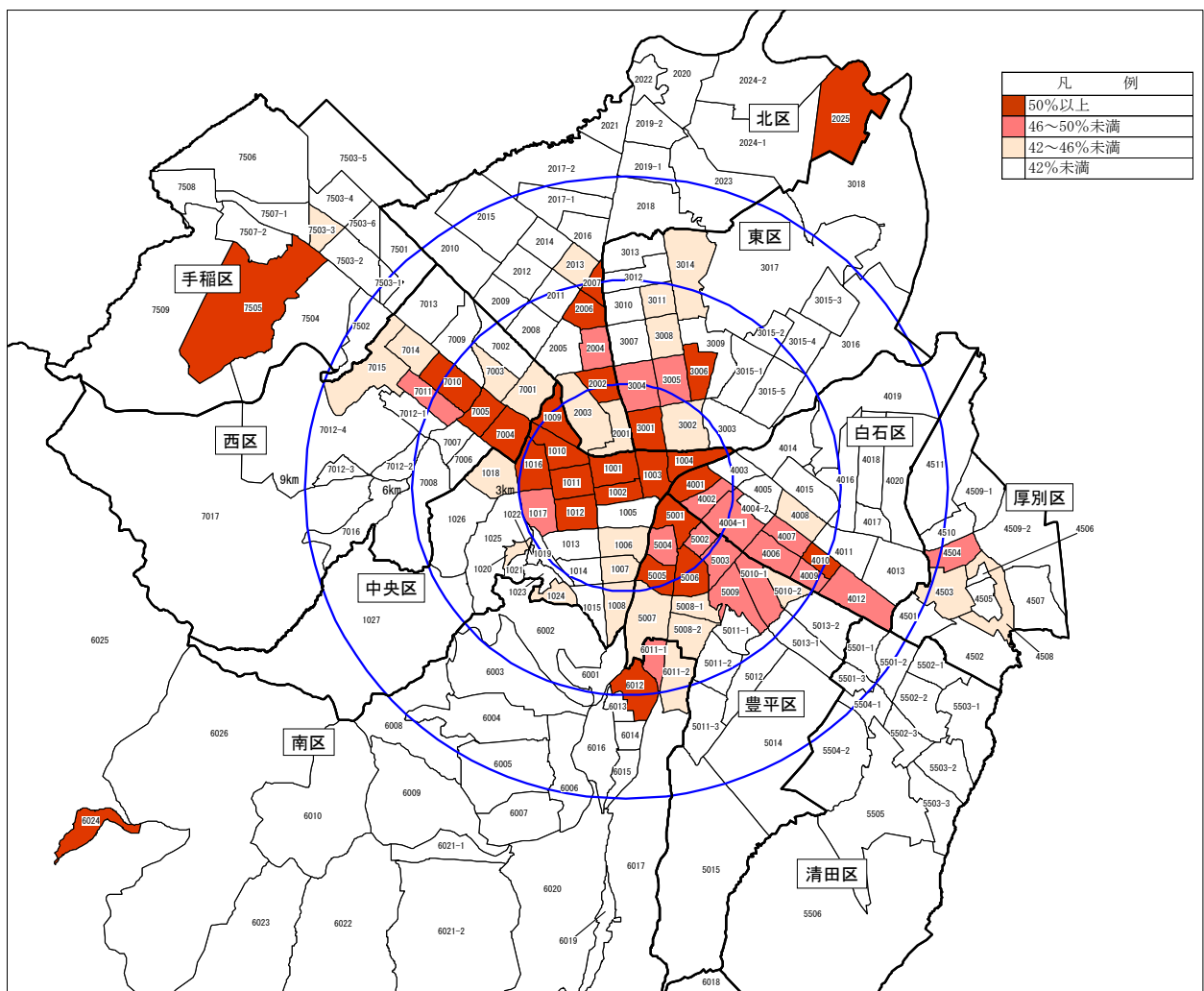
女性の正規の職員・従業員割合が高い統計区は、地下鉄沿線に多い傾向（第2-12表、第2-12図）

次に、女性の正規の職員・従業員割合が高い統計区をみると、南区の6012統計区（真駒内本町、真駒内自衛隊敷地）が64.1%で最も高く、以下、北区の2007統計区（麻生町）が55.7%、中央区の1003統計区（東北地区、東地区）が55.5%などと続いている。

一方、非正規の職員・従業員割合が高い統計区をみると、厚別区の4507統計区（もみじ台東・西・南・北）が68.9%で最も高く、以下、厚別区の4506統計区（厚別中央）が66.0%、豊平区の5014統計区（羊ヶ丘）が63.6%などと続いている。

女性の正規の職員・従業員割合が高い統計区は、地下鉄沿線に多い傾向がみられる。

第2-12図 統計区別正規の職員・従業員割合（女）（令和2年10月1日現在）



注： 第2-12表参照。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

第2-12表 女の正規の職員・従業員及び非正規の職員・従業員割合の高い統計区

15歳以上就業者に関する数値であり、従業上の地位「不詳」を除いて算出。人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

(単位 %)			令和2年10月1日現在		
順位	女の正規の職員・従業員割合の高い統計区		順位	女の非正規の職員・従業員割合の高い統計区	
	統計区番号及び主な地区・町名	割合		統計区番号及び主な地区・町名	割合
1	6012 南) 真駒内本町、真駒内自衛隊敷地	64.1	1	4507 厚) もみじ台東・西・南・北	68.9
2	2007 北) 麻生町	55.7	2	4506 厚) 厚別中央	66.0
3	1003 中) 東北地区、東地区	55.5	3	5014 豊) 羊ヶ丘	63.6
4	4001 白) 菊水	54.7	4	2021 北) 西茨戸	60.1
5	1011 中) 大通地区、桑園地区	54.1	5	5503-2 清) 里塚	59.4
6	2002 北) 幌北地区	53.9	6	5503-3 清) 美しが丘、里塚	59.1
7	7004 西) 二十四軒	53.5	7	3015-3 東) 東苗穂、東雁来、東苗穂町	58.8
8	7005 西) 琴似	53.4	7	7503-6 手) 前田	58.8
9	1010 中) 桑園地区	53.2	9	6013 南) 真駒内本町・曙町	58.5
10	6024 南) 定山溪温泉東、定山溪温泉西	52.6	10	4020 白) 川下	58.2
11	1001 中) 中央地区	52.4	11	3015-4 東) 東苗穂、東苗穂町	57.9
12	2006 北) 麻生地区	52.1	11	4505 厚) 青葉町	57.9
13	1016 中) 円山地区、桑園地区	51.8	13	2017-1 北) 屯田	57.8
14	1004 中) 苗穂地区	51.4	13	4509-1 厚) 厚別西、厚別北、厚別町小野幌	57.8
15	5006 豊) 豊平、美園、平岸	51.2	15	4005 白) 中央	57.4

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

第2-13表 共働き世帯割合の高い統計区及び低い統計区

夫婦のいる一般世帯総数に占める割合であり、夫または妻の労働力状態「不詳」を除いて算出。人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

(単位 %)			令和2年10月1日現在		
順位	共働き世帯割合の高い統計区		順位	共働き世帯割合の低い統計区	
	統計区番号及び主な地区・町名	割合		統計区番号及び主な地区・町名	割合
1	6018 南) 滝野	76.9	1	4506 厚) 厚別中央	22.3
2	5015 豊) 西岡	74.3	2	4507 厚) もみじ台東・西・南・北	30.7
3	6025 南) 定山溪	73.7	3	4505 厚) 青葉町	32.4
4	5506 清) 有明	70.4	4	6023 南) 豊滝	32.8
5	6009 南) 白川	66.7	5	1020 中) 双子山	33.9
6	6010 南) 砥山	63.2	6	6014 南) 真駒内上町・緑町	35.8
7	6024 南) 定山溪温泉東、定山溪温泉西	62.1	7	7503-4 手) 前田	36.7
8	3016 東) 東雁来、東雁来町	61.4	8	6013 南) 真駒内本町・曙町	37.2
9	2017-2 北) 屯田、屯田町	59.2	9	7503-3 手) 前田	37.5
10	4018 白) 川北	56.3	10	5502-1 清) 平岡、平岡公園東	38.0
11	1004 中) 苗穂地区	55.0	10	6015 南) 真駒内幸町・泉町・南町	38.0
12	5014 豊) 羊ヶ丘	54.5	10	7503-6 手) 前田	38.0
13	2024-1 北) 拓北、南あいの里、篠路町拓北	54.1	13	4502 厚) 厚別南、上野幌、厚別町上野幌	38.5
14	4003 白) 菊水上町	53.9	14	6016 南) 真駒内柏丘・緑町、真駒内公園	39.1
15	4001 白) 菊水	53.8	15	6020 南) 真駒内南町、石山、石山東、芸術の森	39.2

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

(3) 夫婦の就業状態

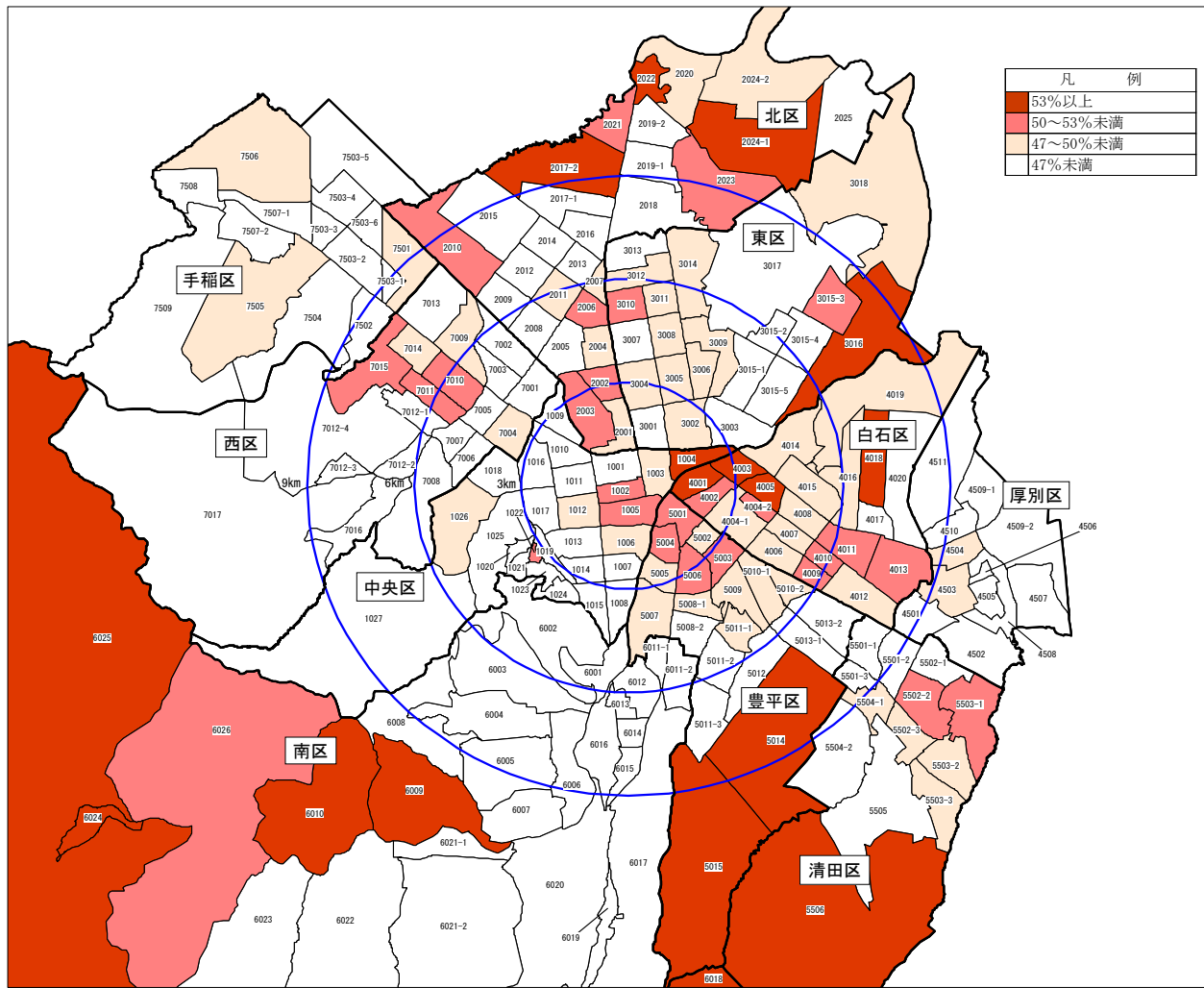
共働き世帯の割合は、都心から9km以上離れた南区や北区の統計区などで高い(第2-13表、第2-13図)

夫婦のいる一般世帯について、夫婦の就業・非就業別の割合(夫または妻の労働力状態「不詳」を除いた夫婦のいる一般世帯総数に占める割合)に注目する。

夫婦ともに就業者のいわゆる「共働き世帯」の割合が高い統計区をみると、南区の6018統計区(滝野)が76.9%で最も高く、以下、豊平区の5015統計区(西岡)が74.3%、南区の6025統計区(定山溪)が73.7%などと続いている。

一方、共働き世帯の割合が低い統計区をみると、厚別区の4506統計区(厚別中央)が22.3%で最も低く、以下、厚別区の4507統計区(もみじ台東・西・南・北)が30.7%、厚別区の4505統計区(青葉町)が32.4%などと続いている。

第2-13図 統計区別共働き世帯割合（令和2年10月1日現在）



注： 第2-13表参照。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

共働き世帯の割合は、都心から9km以上離れた南区や北区の統計区のほか、都心から3km未満の中央区の1004統計区（苗穂地区）や白石区の4001統計区（菊水）などでも高くなっている。

夫が就業者、妻が非就業者世帯の割合は都心から6km未満の統計区で高い傾向（第2-14表、第2-14図）

夫が就業者、妻が非就業者のいわゆる「専業主婦世帯」の割合が高い統計区をみると、中央区の1021統計区（界川）が35.3%で最も高く、以下、南区の6012統計区（真駒内本町、真駒内自衛隊敷地）が34.8%、中央区の1001統計区（中央地区）が34.6%などと続いている。

夫が就業者、妻が非就業者世帯の割合は、都心から6km未満の統計区で高い傾向がみられ、割合が高い上位の統計区の多くは、中央区の統計区が占めている。

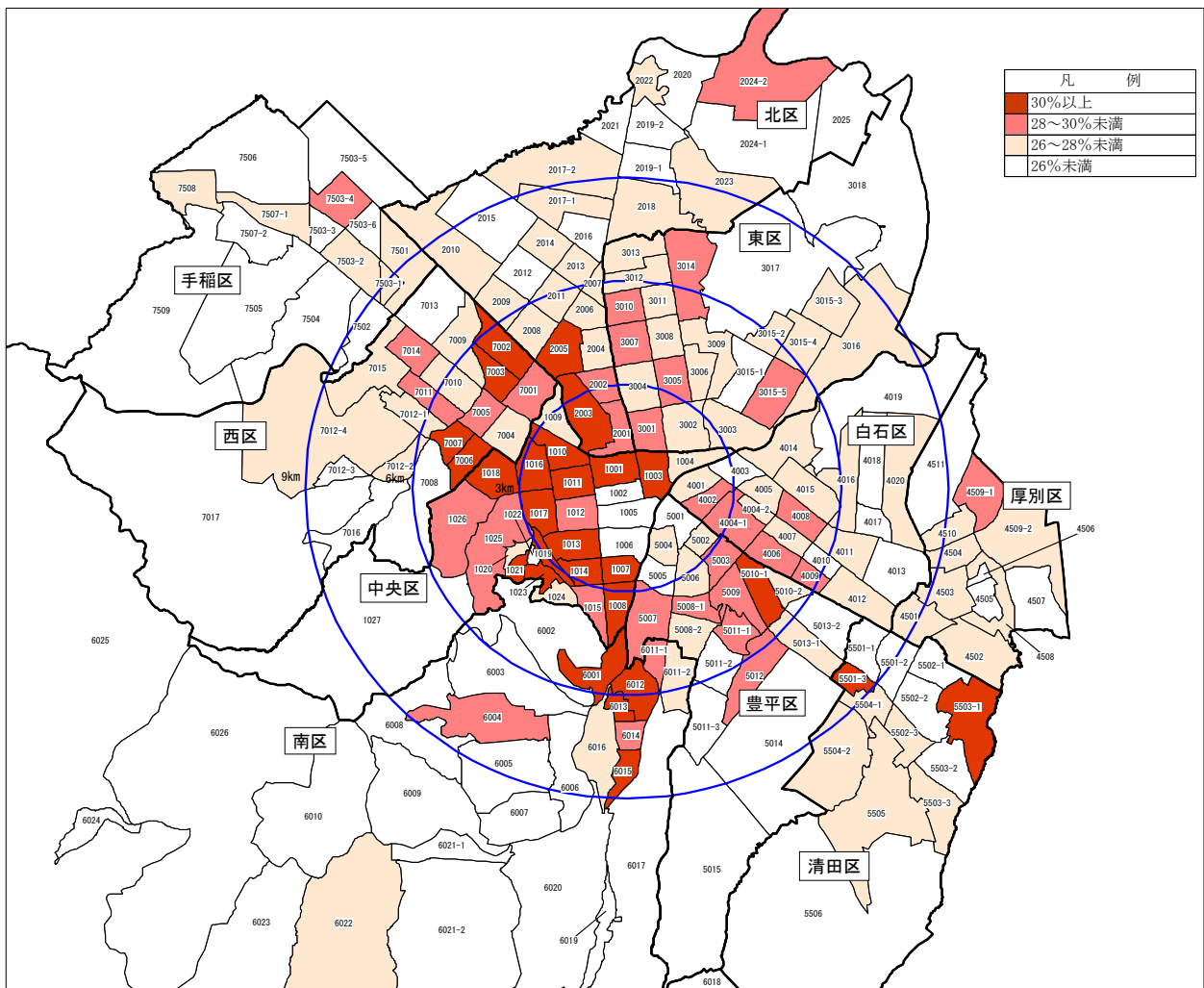
第2-14表 夫が就業者、妻が非就業者世帯割合の高い統計区

夫婦のいる一般世帯総数に占める割合であり、夫または妻の労働力状態「不詳」を除いて算出。人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

(単位 %)		令和2年10月1日現在	
順位	統計区番号及び主な地区・町名	割合	
1	1021 中) 界川	35.3	
2	6012 南) 真駒内本町、真駒内自衛隊敷地	34.8	
3	1001 中) 中央地区	34.6	
4	1018 中) 円山地区、宮ヶ丘、宮の森	34.3	
5	1016 中) 円山地区、桑園地区	34.0	
6	1017 中) 南円山地区、円山地区	33.9	
7	1014 中) 山鼻地区、幌西地区	33.5	
8	7003 西) 八軒西	32.8	
9	1008 中) 山鼻地区	32.6	
9	1023 中) 旭ヶ丘、伏見	32.6	
11	2003 北) 北海道大学構内	31.9	
12	1013 中) 曙地区、幌西地区	31.8	
13	1019 中) 幌西地区、南円山地区	31.5	
14	7002 西) 八軒西	31.4	
15	1010 中) 桑園地区	31.2	
15	7006 西) 山の手	31.2	

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

第2-14図 統計区別夫が就業者、妻が非就業者世帯割合（令和2年10月1日現在）



注： 第2-14表参照。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

4 産業別常住就業者

第1次産業の割合が高い統計区には、南区の統計区が多い（第2-15表、第2-15図）

令和2年10月1日現在の15歳以上常住就業者について、統計区別に産業（3部門）別の割合をみる。

「農業、林業」などが含まれる第1次産業では、南区の6018統計区（滝野）が37.8%で最も高く、以下、北区の2025統計区（篠路町福移）が33.3%、南区の6010統計区（砥山）が28.3%などと続いている。

第1次産業の割合が高い統計区には、南区の統計区が多くなっている。

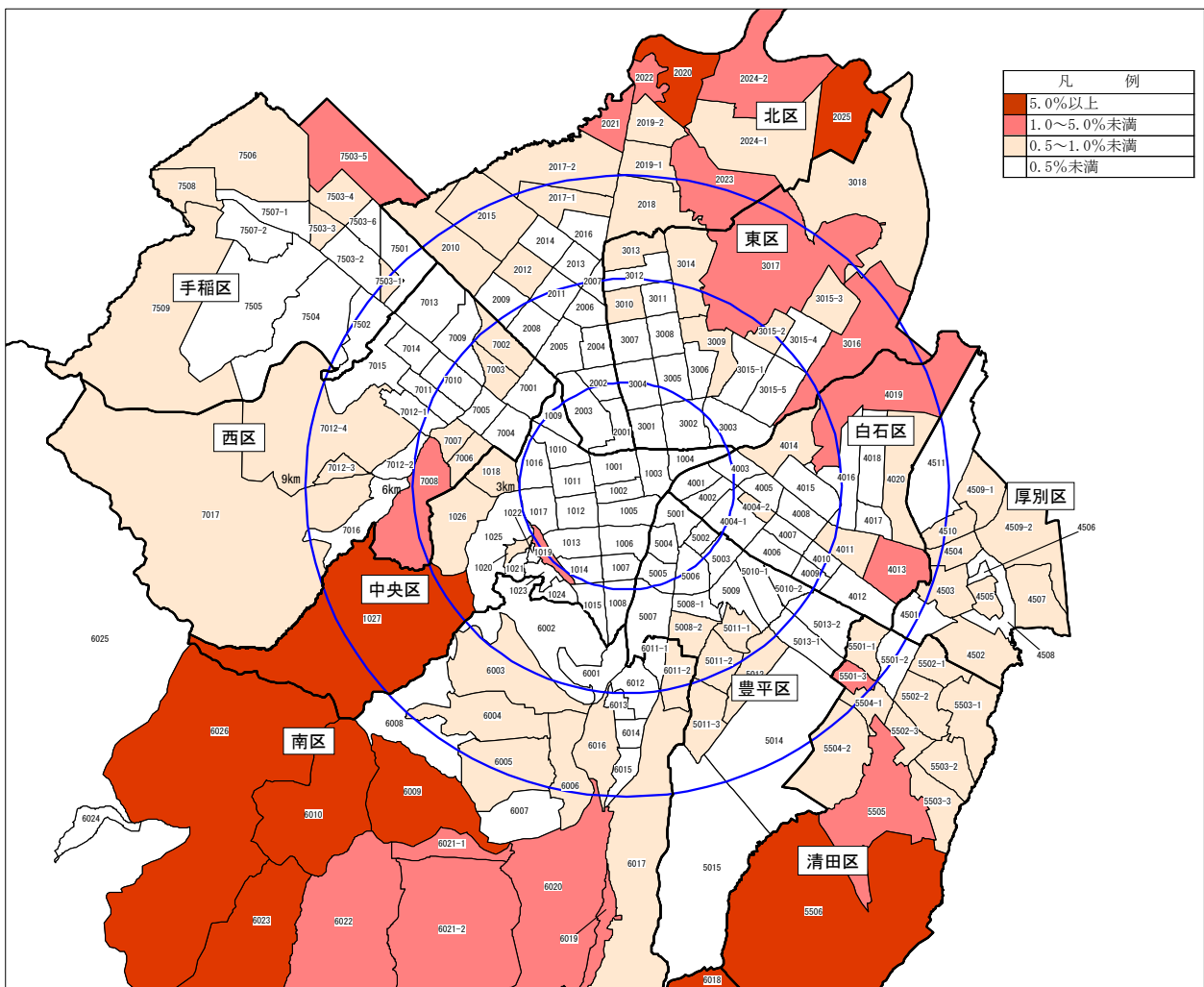
第2-15表 第1次産業常住就業者割合の高い統計区

15歳以上常住就業者に関する数値である。人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

(単位 %)		令和2年10月1日現在	
順位	統計区番号及び主な地区・町名	割合	
1	6018 南) 滝野	37.8	
2	2025 北) 篠路町福移	33.3	
3	6010 南) 砥山	28.3	
4	6009 南) 白川	23.3	
5	5506 清) 有明	21.5	
6	6026 南) 小金湯	15.6	
7	2020 北) 篠路町篠路	12.2	
8	6023 南) 豊滝	8.8	
9	1027 中) 盤溪	8.5	
10	7008 西) 山の手、小別沢	4.7	
11	3017 東) 丘珠地区、北丘珠、丘珠町、モエレ沼公園	2.4	
12	2022 北) 東茨戸	2.3	
13	6022 南) 簾舞	1.9	
14	1019 中) 幌西地区、南円山地区	1.7	
14	6019 南) 常盤	1.7	

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

第2-15図 統計区別第1次産業常住就業者割合（令和2年10月1日現在）



注： 第2-15表参照。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

第2次産業の割合は、工業団地が所在する地域やその周辺の統計区などで高い（第2-16表、第2-16図）

「建設業」や「製造業」が含まれる第2次産業の割合をみると、東区の3018統計区（中沼西、中沼、中沼町）が28.1%で最も高く、以下、白石区の4019統計区（北郷、米里、東米里）が24.9%、北区の2022統計区（東茨戸）が24.3%などと続いている。

第2次産業の割合は、「建設業」の割合が高い東区の3018統計区（中沼西、中沼、中沼町）や北区の2021統計区（西茨戸）などのほか、工業団地が所在する地域やその周辺である西区の7013統計区（発寒）や東区の3017統計区（丘珠地区、北丘珠、丘珠町、モエレ沼公園）などで高くなっている。

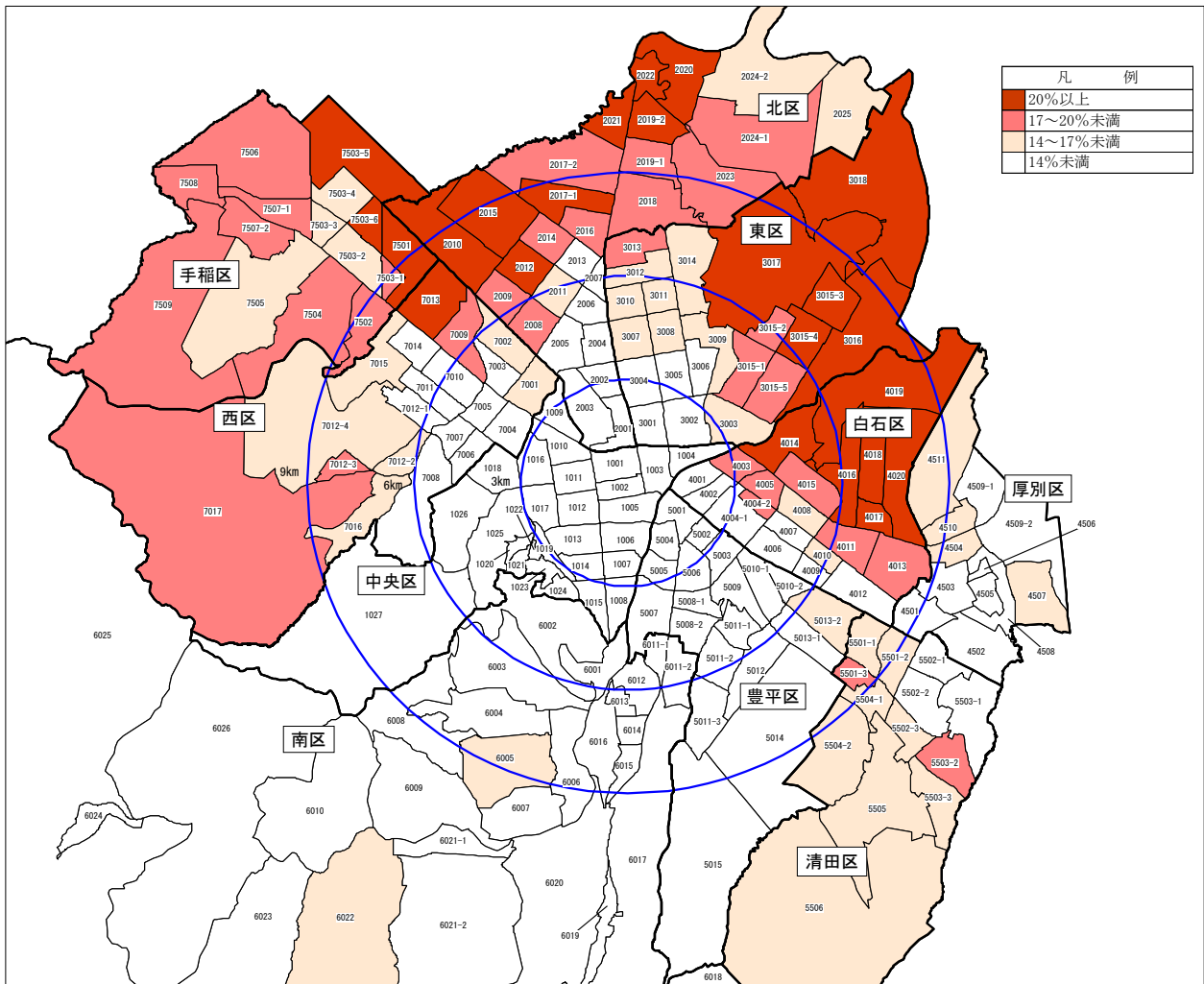
第2-16表 第2次産業常住就業者割合の高い統計区

15歳以上常住就業者に関する数値である。人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

(単位 %)		令和2年10月1日現在	
順位	統計区番号及び主な地区・町名	割合	
1	3018 東) 中沼西、中沼、中沼町	28.1	
2	4019 白) 北郷、米里、東米里	24.9	
3	2022 北) 東茨戸	24.3	
4	7013 西) 発寒	24.0	
5	2021 北) 西茨戸	23.8	
6	4018 白) 川北	23.2	
7	4016 白) 北郷	22.9	
8	2019-2 北) 篠路、篠路町篠路、東茨戸	22.7	
9	4014 白) 菊水元町、米里	22.6	
10	3015-3 東) 東苗穂、東雁来、東苗穂町	22.2	
10	3016 東) 東雁来、東雁来町	22.2	
12	7501 手) 新発寒	22.1	
13	3017 東) 丘珠地区、北丘珠、丘珠町、モエレ沼公園	22.0	
14	2010 北) 新川、新川西	21.9	
15	7503-5 手) 前田、手稲前田	21.2	

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

第2-16図 統計区別第2次産業常住就業者割合（令和2年10月1日現在）



注： 第2-16表参照。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

第3次産業の割合は、都心から6km未満の地域などで高い（第2-17表、第2-17図）

「卸売業、小売業」、「医療、福祉」、「公務（他に分類されるものを除く）」などが含まれる第3次産業の割合をみると、南区の6012統計区（真駒内本町、真駒内自衛隊敷地）が95.9%で最も高く、以下、中央区の1024統計区（伏見）が93.5%、北区の2001統計区（鉄西地区、幌北地区）が92.3%などと続いている。

第3次産業の割合は、都心から6km未満の地域や、南区の6012統計区（真駒内本町、真駒内自衛隊敷地）や南区の6025統計区（定山溪）などで高くなっている。

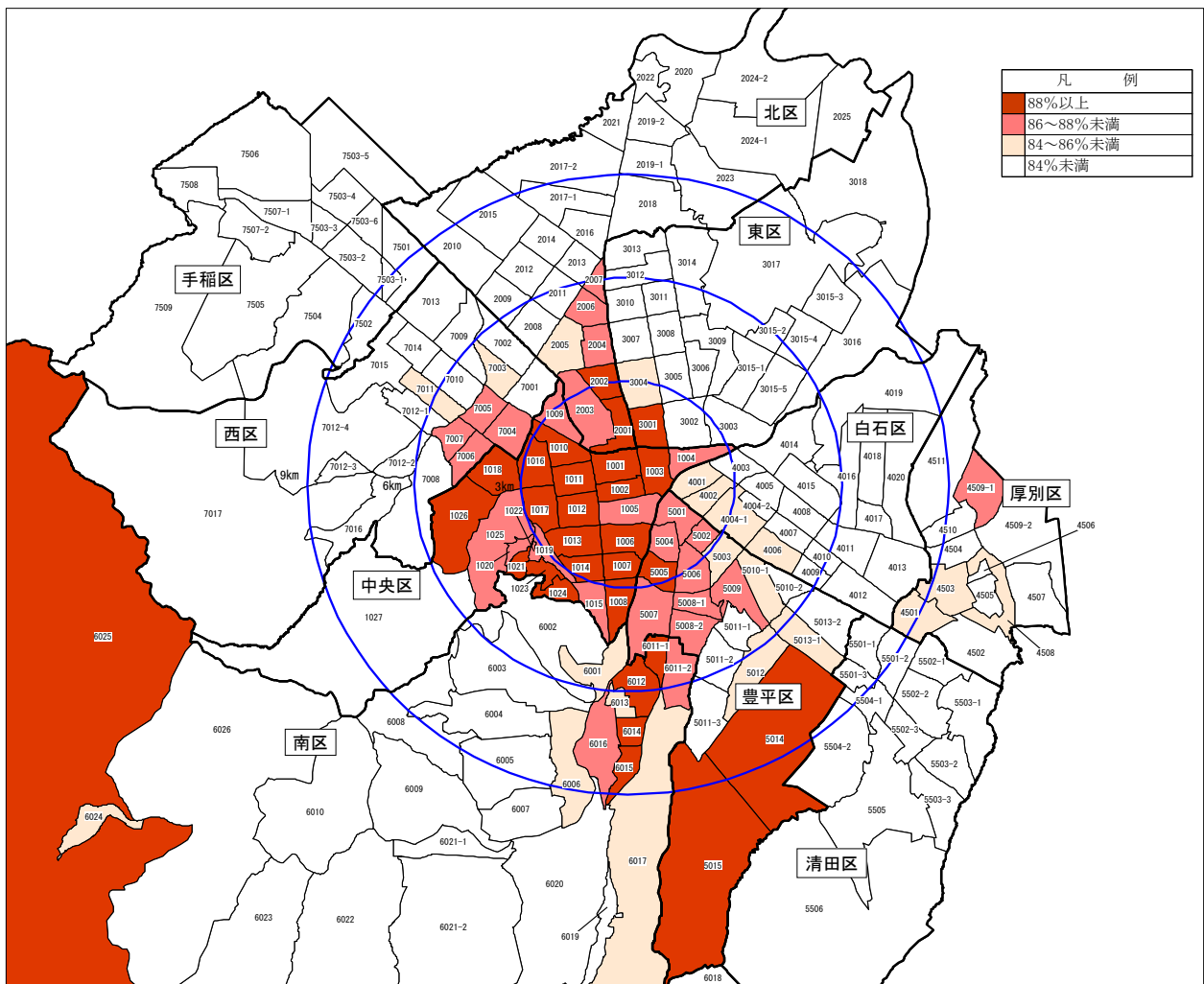
第2-17表 第3次産業常住就業者割合の高い統計区

15歳以上常住就業者に関する数値である。人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

(単位 %)		令和2年10月1日現在	
順位	統計区番号及び主な地区・町名	割合	
1	6012 南) 真駒内本町、真駒内自衛隊敷地	95.9	
2	1024 中) 伏見	93.5	
3	2001 北) 鉄西地区、幌北地区	92.3	
4	6025 南) 定山溪	91.8	
5	1001 中) 中央地区	90.9	
6	6015 南) 真駒内幸町・泉町・南町	90.8	
7	1018 中) 円山地区、宮ヶ丘、宮の森	89.9	
8	1010 中) 桑園地区	89.7	
8	2002 北) 幌北地区	89.7	
10	5014 豊) 羊ヶ丘	89.3	
11	1002 中) 本府地区	89.1	
11	6014 南) 真駒内上町・緑町	89.1	
13	1023 中) 旭ヶ丘、伏見	89.0	
14	1007 中) 山鼻地区	88.7	
15	1008 中) 山鼻地区	88.6	
15	1014 中) 山鼻地区、幌西地区	88.6	

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

第2-17図 統計区別第3次産業常住就業者割合（令和2年10月1日現在）



注： 第2-17表参照。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

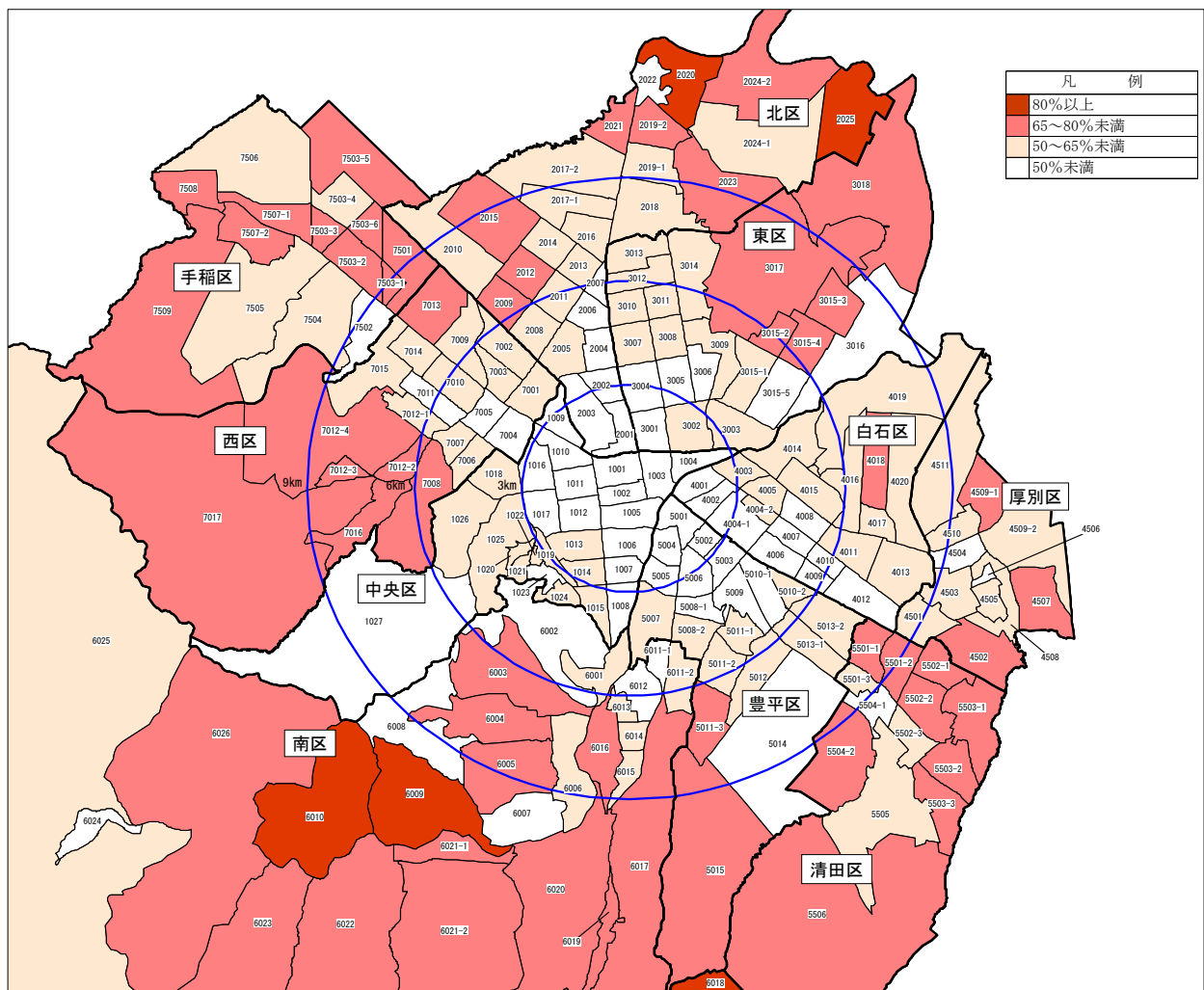
5 居住期間

居住期間が「出生時から」または「10年以上」の人口割合は、南区の6018統計区（滝野）が94.6%で最も高い（第2-18表、第2-18図）

令和2年10月1日現在の居住期間（その世帯の世帯員が現在の場所に住んでいる期間）が「出生時から」または「10年以上」の人口割合を統計区別にみると、南区の6018統計区（滝野）が94.6%で最も高く、以下、南区の6010統計区（砥山）が93.1%、南区の6009統計区（白川）が89.8%などと続いている。

一方、居住期間が「出生時から」または「10年以上」の人口割合が低い統計区をみると、豊平区の5014統計区（羊ヶ丘）が1.9%で最も低く、以下、北区の2003統計区（北海道大学構内）が21.8%、厚別区の4506統計区（厚別中央）が27.3%などと続いている。都心から3km未満の地域では、多くの統計区で50%未満となっている。

第2-18図 統計区別居住期間が「出生時から」または「10年以上」の人口割合
（令和2年10月1日現在）



注： 第2-18表参照。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

第2-18表 居住期間が「出生時から」または「10年以上」の人口割合の
高い統計区及び低い統計区

居住期間「不詳」を除いて算出。人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

(単位 %) 令和2年10月1日現在

順位	居住期間が「出生時から」または「10年以上」 の人口割合の高い統計区		順位	居住期間が「出生時から」または「10年以上」 の人口割合の低い統計区	
	統計区番号及び主な地区・町名	割合		統計区番号及び主な地区・町名	割合
1	6018 南) 滝野	94.6	1	5014 豊) 羊ヶ丘	1.9
2	6010 南) 砥山	93.1	2	2003 北) 北海道大学構内	21.8
3	6009 南) 白川	89.8	3	4506 厚) 厚別中央	27.3
4	2020 北) 篠路町篠路	82.1	4	2001 北) 鉄西地区、幌北地区	28.6
5	2025 北) 篠路町福移	81.0	5	2002 北) 幌北地区	28.7
6	5506 清) 有明	79.7	6	6012 南) 真駒内本町、真駒内自衛隊敷地	30.8
7	6023 南) 豊滝	79.6	7	1001 中) 中央地区	31.7
8	6026 南) 小金湯	79.5	8	1003 中) 東北地区、東地区	32.1
9	5015 豊) 西岡	79.1	9	1005 中) 豊水地区、西創成地区	33.0
10	6022 南) 簾舞	78.4	10	6024 南) 定山溪温泉東、定山溪温泉西	34.1
11	2021 北) 西茨戸	77.7	11	1012 中) 大通地区、西地区	35.4
12	5502-1 清) 平岡、平岡公園東	75.7	12	2007 北) 麻生町	37.0
13	6005 南) 南沢	74.0	13	1002 中) 本府地区	39.1
14	6021-2 南) 藤野	73.9	14	1011 中) 大通地区、桑園地区	39.2
15	6021-1 南) 藤野	73.6	15	3016 東) 東雁来、東雁来町	40.0

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

6 外国人人口

第2-19表 外国人人口の多い統計区

外国人人口は、都心から3km未満の統計区で多い(第2-19表、第2-19図)

令和2年10月1日現在

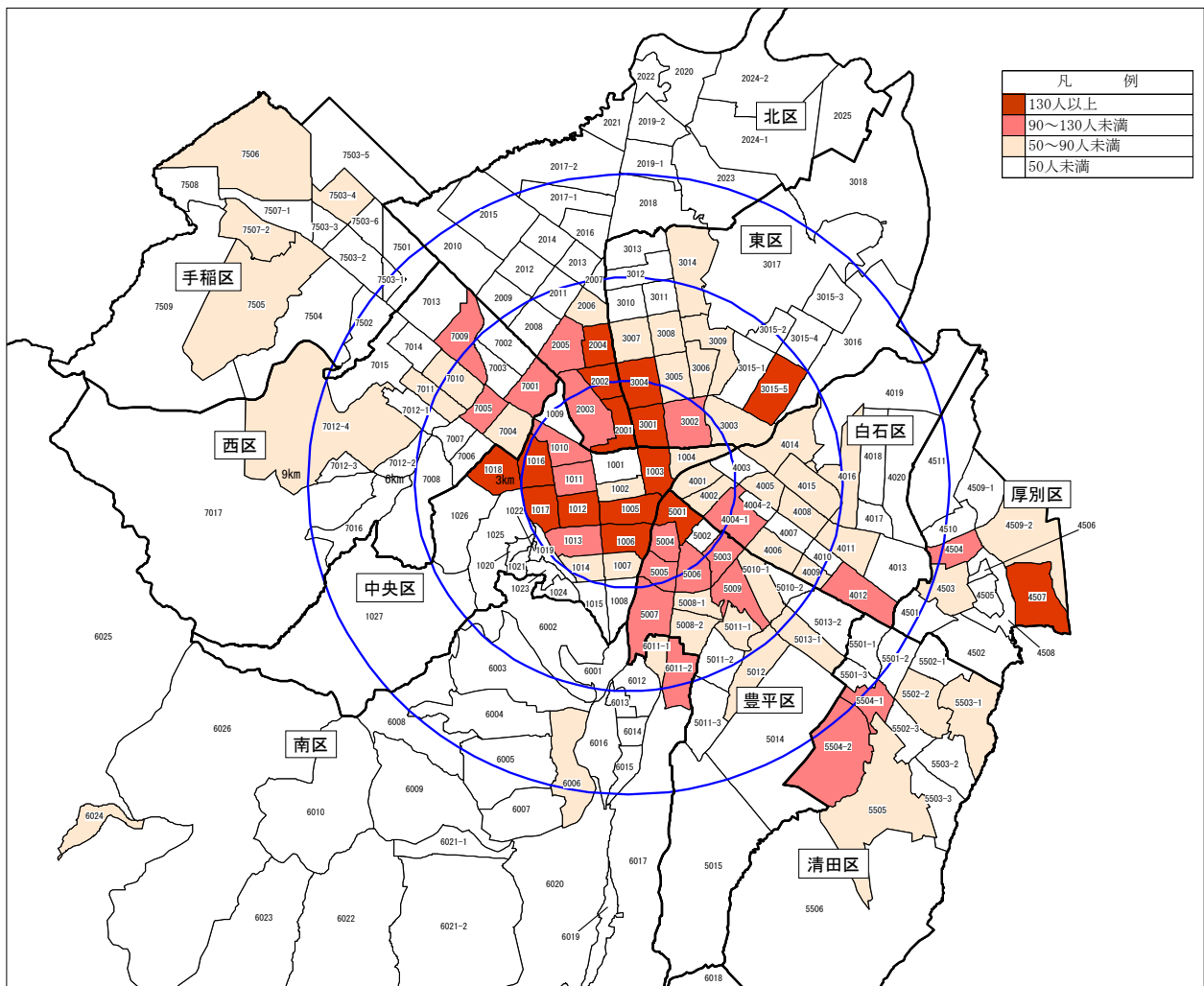
令和2年10月1日現在の外国人人口が多い統計区をみると、北区の2001統計区(鉄西地区、幌北地区)が915人で最も多く、以下、北区の2002統計区(幌北地区)が906人、中央区の1006統計区(豊水地区、曙地区)が354人などと続いている。

外国人人口は、都心から3km未満の統計区で多く、中でも、留学生が多く在籍する北海道大学周辺の統計区で特に多くなっている。

順位	統計区番号及び主な地区・町名	外国人人口
1	2001 北) 鉄西地区、幌北地区	915
2	2002 北) 幌北地区	906
3	1006 中) 豊水地区、曙地区	354
4	3001 東) 鉄東地区、北光地区	296
5	1005 中) 豊水地区、西創成地区	268
6	1012 中) 大通地区、西地区	201
7	1016 中) 円山地区、桑園地区	196
8	5001 豊) 豊平、旭町、水車町	185
9	3004 東) 北光地区、北栄地区	182
10	3015-5 東) 東苗穂、本町	175
11	1017 中) 南円山地区、円山地区	168
12	1003 中) 東北地区、東地区	157
13	4507 厚) もみじ台東・西・南・北	149
14	2004 北) 北地区	138
15	1018 中) 円山地区、宮ヶ丘、宮の森	132

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

第2-19図 統計区別外国人人口(令和2年10月1日現在)



注：人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」